

Title	ベトナムにおける歴代の政府構成メンバー全218名の概要 : 1945年9月～2002年8月
Author(s)	五島, 文雄
Citation	大阪外国語大学論集. 29 p.17-p.59
Issue Date	2003-09-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79916
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ベトナムにおける歴代の政府構成メンバー全 218 名の概要 － 1945 年 9 月～ 2002 年 8 月－

五 島 文 雄

The Complete Biographical Sketch of 218 members of the Government in Vietnam 1945 / 9-2002 / 8

GOTO Fumio

ベトナムにおける歴代の政府構成メンバー全 218 名の概要(アルファベット順)

本稿は、1945 年 9 月 2 日から 2002 年 8 月までにベトナムで政府構成メンバーとなった全 218 名の概要をまとめたものである。

以下の記述は、概ね次の順番でまとめられている。

氏名 生年・没年 出生地(分かる場合は省・都市 / 県・市)
共産党入党日(分かる者のみ) 職歴 学歴

なお、出生地については、現在の地名が行政単位の分割などにより資料公表時点と異なる場合がある。

本稿では原則として現在の地名を記したが、特定できない場合には資料公開時点の地名を記した。

また、職歴の欄で、国会代表(国 7 : 87)とあるのは、1987 年の第 7 期国会で当選したことを意味する。党中央正式委員(党 3 : 60)とあるのは、1960 年第 3 回党大会で党中央正式委員に選出されたことを意味している。その他、在任期間が明確でない職歴、学位取得年が明確でない学歴などについては、すべて在任あるいは学位取得が確認できた年を括弧の中に記している。このような場合、その多くが党大会後に公表された党中央委員名簿、あるいは国会代表選挙の際に公表された立候補者名簿、国会代表を紹介するベトナム公刊の単行本によっている。党大会は過去 9 回開催されている(1935 年、1951 年、1960 年、1976 年、1982 年、1986 年、1991 年、1996 年、2001 年)。また、国会代表選挙は過去 11 回実施されている(1946 年、1960 年、1964 年、1971 年、1975 年、1976 年、1981 年、1987 年、1992 年、1997 年、2002 年)。したがって、職業、学位・学歴のあとにある括弧内の年を見れば、それが、党大会時点の名簿によるものか、国会代表選挙時点の名簿によるものかが容易に想像がつくであろう。

本稿執筆にあたり、使用した資料は以下の通りである。

著書

- ① Thông Tân Xã Việt Nam & Văn Phòng Chính Phủ, *Chính Phủ Việt Nam 1945-1998*, Nhà Xuất Bản Chính Trị Quốc Gia, Hà Nội, 1999.
- ② Thông Tân Xã Việt Nam & Văn Phòng Chính Phủ, *Chính Phủ Việt Nam 1945-2000*, Nhà Xuất Bản Chính Trị Quốc Gia, Hà Nội, 2000.
- ③ Quốc Hội Nước Cộng Hòa Xã Hội Chủ Nghĩa Việt-Nam, *Dại Biếu Quốc Hội Khoa VIII*, Văn Phòng Quốc Hội Và Hội Đồng Nhà Nước, 1983.
- ④ Quốc Hội Nước Cộng Hòa Xã Hội Chủ Nghĩa Việt-Nam, *Dại Biếu Quốc Hội Khoa VIII 1987-1992*, Văn Phòng Quốc Hội Và Hội Đồng Nhà Nước, 1989.
- ⑤ Quốc Hội Nước Cộng Hòa Xã Hội Chủ Nghĩa Việt Nam, *Dại Biếu Quốc Hội Khoa IX (1992-1997)*, Văn Phòng Quốc Hội, 1992.
- ⑥ Quốc Hội Nước Cộng Hòa Xã Hội Chủ Nghĩa Việt Nam, *Dại Biếu Quốc Hội Khoa X (1997-2002)*, Nhà Xuất Bản Chính Trị Quốc Gia 1998.
- ⑦ ファム・カク・ホエ (白石昌也・訳)『ベトナムのラストエンペラー』平凡社、1995 年。

新聞

Nhan Dan (主に、党大会および国会代表選挙関連記事、訃報を利用。訃報掲載日は各人物紹介文の文末を参照)

なお、作成したリストでは、紙幅の都合もあり、職歴については政府構成メンバーになるまでの人物情報を中心にまとめている。いわゆる「要人録」の作成は今後の課題である(ベトナムが統一された 1976 年以降に公刊された「ベトナム要人録」としては、筆者の知る限り、社団法人ベトナム協会が 1982 年 8 月から 1990 年 9 月までに作成したものがあるだけである。この「ベトナム要人録」は、1982 年 8 月、1984 年 7 月、1985 年 6 月、1986 年 11 月、1989 年 9 月、1990 年 9 月に発行されているが、基本的にその時々々の要人を紹介することを目的としていたためにすでに死亡・退職した者は要人リストからはずされている。筆者は 1984 年 7 月版については未見であるが、1986 年版までは要人の経歴を記したものであり、89 年版、90 年版は機関別・役職別要人リストといった体裁のものである。このことから本稿の意義は理解できよう)。

本稿は、もともと別稿「ベトナムの中央行政機関の変遷」(石田暁恵編 『地域経済統合とベトナム - 発展の現段階 -』、日本貿易振興会アジア経済研究所、2003 年 3 月、3 頁 - 75 頁)の添付資料として作成を意図したものである。本稿と共に上記の別稿も合わせて一読いただければ幸いである。

最後に、本稿が大阪外国語大学特定運営経費 B (訃報による人物情報の整理に対する補助)による研究成果の一部でもあることを記しておきたい。

Bo Xuan Luat 1907-1994/ 7 / 4 ハイフン/フォーティエン

国会代表(国 1 - 4 :46-71)、第 3 期ベトナム祖国戦線中央委員会委員、ベトナム祖国戦線中

央委員会主席団委員、農業耕作省大臣(1946/ 3 / 2-1946/ 4)、無任所大臣(1946/11/ 3-55 年初頭)。(ND.1994.7.8)

Bui Danh Luu 1935

交通・運輸省大臣(1986/ 6-1990/ 3)、国会代表(国 8 :87)、党中央正式委員(党 6 :86)、交通・運輸・郵政省大臣(1990/ 3-1992)、党中央委員(党 7 :91)、国会代表(国 9 :92)、交通・運輸省大臣(1992-1996/11)、党中央委員(党 8 :96)

Bui Quang Tao (Bui Nhat) 1913-1995/12/28 タイビン / ティエンハイ

1940 年 9 月入党。1937 年から革命に参加。40 年、フランス当局に逮捕・投獄される。44 年脱獄し、ハドン省で革命活動を行う。45 年 8 月の総蜂起の際にはハドン省ミードゥック県で革命を指揮し、ミードゥック県とティンオアイ県で革命政権を樹立。総蜂起の後、ハドン省党書記、ソントイ省党書記、フート省、イエンバイ省、ラオカイ省の 3 省を担当する北圻党委員会委員となる。46 年から 48 年には第 10 区党書記兼同区抗戦・行政委員会委員長、第 10 連区党副書記兼同連区抗戦・行政委員会委員長を歴任、50 年-52 年には第 10 区と第 1 区を合わせた 18 省からなるベトバック連区党副書記兼同連区抗戦・行政委員会副院長、52 年半ばにはタイバック区党書記兼同区抗戦・行政委員会委員長・軍司令部政治委員、党中央候補委員(党 2 :55 初頭)、党中央正式委員(党 2 :58/ 6)、国会代表(国 1 :58)、水利・建築省次官(閣僚)兼同省党団書記、建築省大臣(1958/ 4-1973/ 6)、党中央候補委員(党 3 :60)、国会代表(国 3 -6、64-82)、党中央組織委員会常設委員会副委員長(73)、ハイフォン市党書記(79-82)、党中央正式委員(党 4、5 :76、82)、政府監査委員会委員長(1982/ 4-1984/ 5)、国家監査委員会委員長(1984/ 5-1987/ 2)。1988 年引退。(ND.1995.12.31)

Bui Thien Ngo 1929 ホーチミン

党中央正式委員(党 6 :86)、党政治局員(党 7 :91)、内務省常務次官(91)、内務省大臣(1991/ 8-1996/11)、国会代表(国 9 :92)。中将(91)、文学総合大学卒。

Cao Si Kiem

党中央候補委員(党 6 :86)、ベトナム国家銀行総裁(1989/ 4-1997)

Chu Ba Phuong

経済省大臣(1946/ 3 / 2 - 1946/11/ 3)、救済省大臣(1946/11/ 3 - ?)

Chu Tam Thuc 1932/ 8 /12-1993/ 4 /18 バクニン / トゥーソン

1957 年 2 月 8 日入党。1947 年、15 才の時よりベトバック戦区で革命に参加。54 年、首都の接収に参加。54 年-59 年、ハノイ市財政局幹部。59 年-65 年、中央労働者・農民文化補足学校、外国語補足学校で学び、その後、モスクワの財政大学で学ぶ。70 年-73 年には、モスクワの財政

大学の大学院生となり、経済学修士を取得、引き続き財政省で働く。75 年-81 年、財政省の局長、次官を歴任、82 年には党中央候補委員(党 5 :82)、財政省大臣(1982/ 4-1986/ 6)となる。86 年 6 月-90 年 5 月、国家行政学院副院長。経済学修士(モスクワ財政大学)。(ND.1993.4.21)

Chu Tuan Nha

科学・技術・環境省大臣(1997-2002)

Chu Van Tan 1910 バックタイ

国防省大臣(1945/ 9 / 2-1946/ 3 / 1)、党中央正式委員(党 2,3:51,60)、国会代表(2- 6、60-82)、ヌン(Nung)族、上将・国会民族委員会委員長・国会常務副主席・憲法起草委員(?)

Cu Huy Can 1919 ゲティン

無任所大臣(1945 年 9 月 2 日臨時政府)、農業耕作省大臣(1946/ 1 / 1-1946/ 3 / 1)、農業耕作省次官(1946/11/ 3-1955/ 9 ?)、国会代表(国 2 :60)、文化芸術工作担当大臣(1981 年-1987 年)、国会代表(国 8 :87)、ベトナム文学・芸術協会会長(87)、国会文化・教育委員会副委員長(87)

Dang Hoi Xuan 1929/ 2 / 2-1988/ 9 / 9 ナムディン / スアンチュオン

1947 年 1 月 7 日入党。貧しい教育者の家庭に生まれる。45 年 3 月から革命に目覚め、働きながら、スアンチュオン県の救国青年組織内で秘密活動に参加、同組織内で 49 年まで活動をする。47 年に入党、49 年には県党委員会委員。その後、第 3 連区抗戦・行政委員会党団事務局で活動し、同事務局党書記となる。52 年から、第 3・4 連区医師養成学校で学び、54 年に卒業。62 年医者となり、69 年には医学修士号を取得し、78 年にはチェコスロバキアで医学修士号を取得した。この間、54 年には、タイビン省医療局長、54 年-55 年にはハイフォン市でも医療を担当し、その後、C 病院院長、ハイフォン治療院院長などを務め、60 年-78 年はハイフォン市ベトナム・チェコスロバキア病院で主に活動した。同病院では、内科主任、副院長、院長を歴任し、同病院党委員会書記を務めた。また、ハノイ市党委員会の健康保護委員会常務副委員長も務めた。78 年 11 月から、医療省次官兼越・ソ友好病院院長。82 年 4 月からは医療省大臣(1982/ 4-1988/11)のほか、人口・家族計画化国家委員会委員長、ベトナム・インド友好協会会長、党中央健康保護委員会副委員長などを歴任。国会代表(国 7、8 :81-88)。医学修士。(ND.1988.9.15)

Dang Huu 1932 ビンディン(ギアビン)

党中央候補委員(党 5 :82)、国家科学・技術委員会委員長(1982/ 4-1990/ 3)、党中央正式委員(党 6、7 :86,91)、国会代表(国 8 :87)、国家科学委員会委員長(1990/ 3-?)、科学・技術・環境省大臣(1992-1996/11)、党中央委員(党 8 :96)、国会代表(国 10:97)、党中央科学・教育委員会委員長・道路・橋梁分野教授・ロシア交通アカデミー会員・国会科学技術環境委員会委員

(97)。教授Ⅱ・科学技術修士(87)。

Dang Phuc Thong

交通・公共事業省次官(閣僚)(1946/11/ 3 -1955/ 9 ?)

Dang Thai Mai 1902/12/25-1984/ 9 /25 ゲアン / タインチュオン

共産党員。愛国的儒者の家庭に生まれる。ハノイ師範高等学校で学んでいる頃(1925-1927年)からファン・ボイ・チャウ恩赦要求運動、新越党設立運動などに参加。新越党指導委員会委員の1人として、当時設立された共産主義グループに参加した。1930年-32年、フランス当局に逮捕され、フエで投獄される。釈放されたのち、ハノイに戻り、教職につく。35年、友人達とタンロン私立学校を設立し、青年や学生の愛国運動を鼓舞した。国会代表(国1-5:46-76)、教育省大臣(1946/ 3 / 2 -1946/11/ 2)、祖国戦線主席団委員、タインホア省抗戦行政委員会委員長(47-48)、ベトナム文学協会会長(48-49)、第4連区文科大学学長(50)、第4連区教育局局長、同連区大学予備学校校長、上級師範学校校長を歴任。54年からはハノイ総合大学語文科主任、ハノイ師範大学学長兼語文科主任、ベトナム社会科学委員会所属の文学院院长、ベトナム文学・芸術協会会長(57-84)、ベトナム祖国戦線中央委員会主席団委員などを歴任。(ND.1984.9.26)

Dang Thi 1921/ 4 -2001/12/16 クアンチ / チュウフォン

1938年入党。1936年より革命に参加。1936年-38年、フランス当局に逮捕・投獄される。45年-48年、クアンチ省において政権奪取のために蜂起を指導、クアンチ省党書記、ビンチティエン分区党委員会委員を歴任。国会代表(国1-7:46-82)、49年-50年、第4連区党委員会委員、タインホア省党書記代理、51年-57年、ビンチティエン分区党書記、ビンチティエン戦線政治委員、第4連区党書記を歴任。58年-64年、統計総局局長、同総局長、65年—70年の間の一時期に国家計画委員会副委員長(閣僚)(1969/12-1971)、71年-73年には首相府事務局局長(1971-1973/ 4)、外国との経済連絡委員会委員長(71-73)、74年-81年には統一委員会委員長(1974/ 3 -1981)、C工作党幹事会党書記、首相府大臣(1976-1977/ 2)、党中央正式委員(党4:76)などを歴任、81年-83年には閣僚評議会総書記(1981-1982/ 4)兼C工作党幹事会党書記、党中央正式委員(党5、6:82、86)、ラオス・カンブチアとの経済文化協力委員会委員長(1987-1989/ 1)(ND.2001.12.18)

Dang Van Huong

無任所大臣(1947-1955)

Dang Viet Chau 1914/ 7 / 2 -1990/ 5 /21 ハナムニン / ナムニン

1930年末に入党。1929年からナムディン市の学生運動に参加。30年末、ハイフォン市のセメント工場の労働者となる。37年、北圻党委委員となり、C区(ナムディン、ハナム、タイビン、

ニンビン)担当。45 年 8 月、ヴィンイエンス省主席となる。内務省事務局長(46/ 4)、ハノイ市防衛委員会参加(46/12)、タインホア省抗戦行政委員会委員長(47/ 2)、第 4 連区抗戦行政委員会副委員長(48/ 9)、経済省次官(50/ 6)、商業省次官(55/12)、外国貿易省次官兼同省党団書記、国家計画委員会副委員長(60 末)、財政省大臣(1965/ 4 -1974/ 3)、副首相(1974/ 3 -1976)、ベトナム国家銀行総裁(75-76)、外国貿易省大臣(1976-1980/ 2)、副首相(1981/ 1 -?)、国会代表(国 1 - 6 :46-81)。(ND.1990.5.23)

Dang Vu Chu

軽工業省大臣(1990/ 2 -1995/10)、党中央委員(党 7 :91)、工業省大臣(1995/10-2002/ 8)、党中央委員(党 8 :96)

Dao Dinh Binh 1945/ 2 / 6 /- バクニン/ティエンズ

1974 年 7 月 16 日入党。党中央委員(党 9 :01)、国会代表(国 11:02)、交通・運輸省次官兼ベトナム鉄道連合会総裁・ベトナム鉄道党委員会書記(02/ 4)、交通・運輸省大臣(2002/ 8 現在)

Dao Thien Thi(Du) 1920/ 2 /23-1998/10/17 ハタイ/タインオアイ

1947 年入党。貧農の家庭に生まれる。ニャチャンで公開の青年運動に参加、カインホア省の青年団連団長(44-45)。カインホア省の人民蜂起委員会、人民委員会の委員として経済、外務を担当し、同省の兵器委員会、軍事委員会の委員(45/ 8 -45/12)。農業耕作省生産信用局担当幹部(46-50/12)、財政省予算局局长、経済建設局局长、財政省次官など歴任(51-74/ 2)。国会代表(国 1 -3,5- 7 :46-71、75-87)、財政省大臣代理(1974/ 3 -1976/ 7)、財政省大臣(1976/ 7 -1977/ 2)、労働省大臣(1981/ 2 -1987/ 2)、同じ頃、中央人口移動指導委員会委員長を兼任。1990 年 6 月引退。(ND.1998.10.18)

Dao Trong Kim 1897/ 1 / 3 -1984/ 7 / 6 ハノイ

交通・公共事業省大臣(1945/ 9 / 2 -1946/ 3 / 1)、国会代表(国 1 :46)。元水利省水利設計院副院長(?)。(ND.1984.7.7)

Dau Ngoc Xuan 1927 ゲティン

党中央正式委員(党 6 :86)、国家計画委員会副委員長(閣僚)(1987/ 2 -1988/ 3)、国家計画委員会委員長(1988/ 3 -1989/ 3)、協力・投資に関する国家委員会副委員長(閣僚)(1989/ 3 -1989/ 4)、協力・投資に関する国家委員会委員長(1989/ 4 -1995/10)、党中央委員(党 7 :91)、国会代表(国 9 :92)、投資案件国家審査評議会議長(1995/10-1996/10)

Dinh Duc Thien

党中央候補委員(党 3 :60)、機械・冶金省大臣(1969/12-1974/ 3)、国家計画委員会副委員長(1975-1976)、党中央正式委員(党 4 :76)、石油・天然ガス工作担当大臣(1976/ 7 -1980/ 2)、交

通・運輸省大臣(1980/ 2 -1982/ 4 /23)

Do Chinh (本名は Do Dinh An) 1926/10/11-1994/ 2 /18 ハイフン / ミーヴァン

第10連区党常務委員、その後、ベトバック連区(党常務委員)、ハイニン省党書記、ドンバク軍区 F332 政治委員、左岸軍区 E248 政治委員、350 司令部政治委員、第3軍区党委員会委員、ハイフォン市党副書記兼人民委員会委員長、カンボジアにおけるベトナム専門家団指導委員会委員長などを歴任。党中央候補委員(党4:76)、海産省大臣(1977/11-1981/ 1)、国会代表(国7:81)、中央経済委員会副委員長・国会経済計画財政委員会委員(81)、党中央正式委員(党5:82)、党財政計画委員会委員長(82?)、党中央正式委員(党6:86)、党中央委員(党7:91)、党中央経済委員会委員長(91)、党中央経済委員会第一副委員長、党中央経済機関グループ党書記(94)。(ND.1994.2.19)

Do Muoi 1917/ 2 / 2 - ハノイ / タインチ

八月革命後、ハドン省党書記。ハナム省党書記(46初)、ナムディン市党書記兼ナムディン省防衛委員会主席(46末)、ニンビン省党書記(48)、第3連区党副書記兼抗戦行政委員会副主席、第3連区司令部政治委員(48)、紅河左岸区党書記兼左岸区司令官(51-54)、ハイフォン市党書記(55)、党中央候補委員(55)、商業省次官(56)、国内通商省大臣(1958/ 4 -1961/ 1)、国会代表(国2:60)、党中央正式委員(60)、国家物価委員会委員長(1967/11-1971)、首相府経済事務局局長(1969/12-?)、建設省大臣(1973/ 6 -1977/11)、南ベトナム私営工商業改造指導工作責任者(78/ 3 -78末)、副首相(1969/12-1988/ 6)、党書記局員(党4:76)、党政治局員(党5:82)、党政治局員兼書記局員(党6:86)、閣僚評議会主席(首相)(1988/ 6 -1991/ 7)、国会代表(国10:87)、党書記長・政治局常務(党7:91)、党書記長・政治局常務(党8:96)、97年12月4中総で顧問に就任(資料①参照)

Do Nguyen Phuong 1937 ハノイ

医療省大臣(1995/10-2002/ 8)、党中央委員(党8,9:96,01)、国会代表(国10:97)、教授・哲学修士・博士・ベトナム医学会委員(97)

Do Quang Trung 1946/ 1 /20 ハタイ / ウオンホア

1968年4月20日入党。党中央候補委員(党6:86)、国会代表(国8:87)、クアンニン省党副書記・人民委員会委員長・国会経済計画財政委員会委員(87)、党中央委員(党7,8,9:91,96,01)、政府組織・幹部委員会委員長(閣僚)(1996/11-2002/ 8)、国会代表(国10,11:97,02)、内務省大臣(2002/ 8現在)、経済科学大学(計画経済大学)卒

Do Que Luong

ベトナム国家銀行総裁代理(1997-1998/ 5)

Do Quoc Sam 1929 ハバック

国家基本建設委員会委員長(1982/10-1988/ 3)、党中央候補委員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)、建設科学技術修士(87、92)、党中央委員(党 7 :91)、国家計画委員第一副委員長(91)、国家計画委員会委員長(1991/ 8 -1995/10)、国会代表(国 9 :92)、教授(92、97)、計画・投資省大臣(1995/10-1996/10)、投資案件国家審査評議会議長(1996/11-2002/ 8 現在)、国会代表(国 10 :97)、国会経済財政委員会委員(97)

Do Trung Ta 1945/12/12- ハタイノミドゥック

1970 年 6 月 26 日入党。党中央委員(党 9 :01)、ベトナム郵便・遠距離通信総公司総裁(02・4)、郵政省大臣(2002/ 8 現在)。教授、遠距離通信部門科学博士

Doan Duy Thanh 1929 ハイフン

国会代表(国 :81)、ハイフォン市党書記(81)、国会経済財政委員会委員(81)、党中央候補委員(党 5 :82)、党中央正式委員(党 6 :86)、副首相(1987/ 2 -1988/ 5)、外国貿易省大臣(1986/ 6 -1988/ 3)、対外経済省大臣(1988/ 3 -1990/ 3)

Doan Khue 1923/10/29 － 1999/ 1 /16 クアンチノチュウフォン

1945 年 6 月入党。1939 年、反帝青年団に参加。40 年 8 月、チュウフォン県救国青年団書記。40 年末、フランス当局に逮捕・投獄される。45 年 5 月、出獄し、クアンビン省で革命の基礎組織建設に従事。同年 6 月入党し、クアンビン省ベトミン戦線主任となる。45 年 8 月、クアンビン省軍事委員、46 年 8 月からクアンガイ陸軍学校政治委員、同党委員会書記、クアンガイ省のホーヒック大隊政治委員、同党委員会書記。47 年 4 月から第 5 連区の第 69、73、78、84 連隊の政治委員および各連隊の党委員会書記、ダクラック省幹事会常務委員を歴任。53 年 5 月から、第 5 連区の第 108 連隊政治委員、同党委員会書記、第 305 師団副政治委員。54 年末-57 年、第 675 師団副政治委員、第 351 師団政治委員、同師団党委員会書記。58 年 3 月-60 年、第 270 旅団政治委員、同党委員会書記、第 4 軍区党委員会委員。60 年 10 月から、第 4 軍区副政治委員、同軍区党委員会委員。63 年初頭-75 年、第 5 軍区の戦場で活動し、同軍区副政治委員、党常務委員、党副書記などを歴任。76 年、党中央正式委員(党 4 :76)、第 5 軍区司令官兼政治委員、同軍区党委員会書記。少将(74-80)、82 年には党中央正式委員(党 5 :82)、第 5 軍区司令官(82)、第 719 司令部副司令官兼参謀長・中将(80-84)、カンボジア支援専門家団副団長、上将(84-90)、86 年末、党政治局員(党 6、7 :86、91)、国防省次官、第 719 司令部司令官、カンボジア支援専門家団指導委員会委員長、87 年、ベトナム人民軍総参謀長、党中央軍事委員会常務委員、91 年 6 月、党中央軍事委員会副書記、大将(90-)、同年 8 月、国防省大臣(1991/ 8 -1997)、党政治局員(党 8 :96)、国防安寧会議メンバー(92)。国会代表(国 7 :10:81-99)。軍事大学卒(97)。(ND.1999.1.17)

Doan Manh Giao 1944/10/27- トウアティエン・フエ / フーロック

1971年12月入党。政府事務局局長(閣僚)(1999/3-2002/8現在)、国会代表(国11:02)、政府党幹事会委員、各中央機関第1グループ党常務委員、政府事務局党委員会書記(02)、機械製造技師、外国語大学卒、政治理論上級(02)

Doan Trong Truyen

国会代表(国4、5、6:71,75,76)、国家物価委員会委員長(1981/2-1984/5)、閣僚評議会総書記(1984/5-1987/2)、閣僚評議会事務局局長(1984/5-1987/2)

Dong Sy Nguyen 1922 クアンビン(ビンチティエン)

国会代表(国6:76)、党中央正式委員(党4:76)、建設省大臣(1977/11-1982/4)、国会代表(国7:81)、交通・運輸省大臣(1982/4-1986/6)、政治局候補委員(党5:82)、副首相(1982/4-1991/8)

Duong Bach Lien 1925/2/24-1986/3/2 ハノイ

1945年9月入党。1944年より革命に参加。党中央経済機関党常務委員、党中央経済管理研究院党書記、交通運輸省大臣(1974/3-1976)、党中央交通運輸委員会党書記、国家計画委員会副委員長、国家計画委員会党書記、鉄道総局総局長、ハノイ市党部執行委員などを歴任。(ND.1986.3.4)

Duong Duc Hien

青年省大臣(1945/9/2-1946/3/1)

Duong Quoc Chinh (Le Hien Mai) 1918/11/23 - 1992/11/6 ハタイ / フックト

1940年入党。1939年、反帝青年会に加入。ソントイ省反帝青年会執行委員会書記。41年-44年、フランス当局により逮捕、投獄される。44年8月、脱獄し、救国軍に参加。46年3月、第2戦区参謀長兼政治委員、第2軍区党委員会書記兼軍委員会補足学校政治委員、第2区党常務委員、47年2月、タイティエン戦線政治委員兼任。48年、少将、第1連区政治委員、同軍区党副書記、第1連区党常務委員。49年6月、南部司令部政治委員兼同軍員党副書記。50年4月-52年、南部副司令官兼南部東方分連区副司令官、南部東方区党委員会委員。53年、南部西方区司令官、同区軍党委員会書記、同区常務委員。58年8月、軍事学校を卒業後、砲兵司令部政治委員兼同党書記。その後、水利・電力省大臣(1960/7-1963/1)、同省党団書記。党中央正式委員(党3:60)、農業省大臣(1963/1-1965/4)、同省党団書記、国会代表(国3:64)、65年4月、中央軍事委員会委員、第4軍区司令部党書記、政治委員。67年8月、ベトナム人民軍政治総局副局長、党中央軍事委員会常務委員兼政治学院院長、中將。71年6月、内務省大臣(1971/6-1975)(のちの、傷病兵・社会省)、同省党団書記、侵略戦争罪惡調査委員会委員長、国会代表(国5-7:75-87)、党中央正式委員(党4:76)、傷病兵・社会省大臣(75-82/4)、90年、ベト

ナム旧戦兵の会臨時中央委員会副委員長。(ND.1992.11.9)

Ha Ke Tan 1914 － 1998/10/17 ハソンビン(ハタイ)

首都師団・ハノイ市党委常務委員(54)、国会代表(国 2 :60)、水利省次官(60)、党中央候補委員(党 3 :60)、紅河治水開拓委員会委員長(62)、水利・電力省大臣(1963/ 1 -1964?)、国会代表(国 3 - 6 :64-82)、水利省大臣(1964-1973/ 6)、ダー河建設工事担当大臣(1973/ 6 -1978/ 5)、党中央正式委員(党 4 :76)、国会代表(国 7 :81)、ハノイ市旧戦士の会主席(87)。(ND.1998.10.19?)

Ha Quang Du 1945 ハツウエン(ツウエンクアン)

国会代表(国 8 :87)、ホーチミン共産青年団中央第一書記・国会青少年児童委員会委員長(87)、党中央委員(党 7 :91)、国会代表(国 9 :92)、飼育技師・農業技師(92)、政府青年・体育・スポーツ工作担当大臣(1992-1997)、党中央委員(党 8 :96)、体育・スポーツ委員会委員長(1997-2002)、国会代表(国 10 :97)、タイ(Tay)族

Ho Chi Minh 1890/ 5 /19-1969/ 9 / 2 ゲアン/ナムダン

臨時政府主席(1945/ 9 / 2 -1945/12/31)、政府主席兼外務省大臣(1946/ 1 / 1 -1946/ 3 / 1)、政府主席(1946/ 3 / 2 -1946/11/ 2)、国家主席兼首相兼外務省大臣(1946/11/ 3 -1947)、国家主席兼首相(1947-1955)、国家主席(閣僚)(1955/ 9 /20-1959/ 5 /27)、党主席(1951-1969)。(資料①参照)

Ho Ngoc Nhuong 1922-1996/ 3 /10 カインホア/ニャチャン

1946 年入党。1945 年から革命に参加。国家計画委員会副委員長、閣僚評議会事務局局長(1987/ 4 -1992/10)、経済・計画大学学長、フーカイン省人民委員会委員長、カインホア省人民委員会委員長を歴任。(ND.1996.3.16)

Ho Te

財政省大臣(1992/ 5 -1996/11)

Ho Viet Thang (Ho Sy Khang) 1918/ 3 / 4 -1998/ 8 /21 ゲアン/クインリュウ

1939 年入党。1936 年より革命運動に参加。40 年末-45 年 4 月、フランス当局に逮捕・投獄される。45 年 6 月-12 月、ゲアン省クインリュウ県臨時党書記、ゲアン省党委員会委員、同省党書記(45/10-1946 末)。第 4 区党委員会委員、タインホア省党書記(47 初－ 48/ 4)、第 4 区党常務委員、同党副書記(48/ 5 -49/ 7)、党中央農民運動委員会委員長、党とりエンヴィエット戦線内のベトナム救国農民会書記(49/ 8 -51/ 2)、党中央候補委員(党 2 :51)、党中央正式委員(53-56/10)、農林省次官(53-56)、祖国戦線中央委員、党中央事務局幹部、党中央農村工作委員会幹部、中央合作社学校およびグエン・アイ・クオック担当幹部(56/10-61/ 6)、国家計画委員

会委員、同副委員長兼党書記(61/ 6 -1979)、食糧・食品省大臣(1979/ 4 -1981/ 1)兼同省幹事会書記、国家計画委員会副委員長(80/12)、1983年引退。(ND.1998.8.23)

Hoang Anh 1912 ツウアティエン(ビンチティエン)

党中央候補委員(党2:51)、党中央正式委員(55)、財政省大臣(1958/ 6 -1965/ 4)、財政・商業事務局局長(1960-1963/ 1)、党書記局員(党3:60)、農業事務局局長(1965/ 4 - 1969/12)、農業省大臣(1965/ 4 -1967/11)、副首相(1971/ 4 -1976)、中央農業委員会委員長(1971/ 4 -1974/ 4)、ベトナム国家銀行総裁(1976-1977/ 2)、党中央正式委員(党4:76)、財政省大臣(1977/ 2 -1982/ 4)

Hoang Duc Nghi 1940 カオバン

資材省大臣(1982/ 4 -1990/ 3)、党中央候補委員(党6:86)、山岳部・少数民族工作担当大臣(1990/ 3 -1992)。党中央正式委員(党7:91)、大臣・山岳部少数民族事務局主任(91)、党中央委員(党8:96)、民族・山岳部委員会委員長(1992-2002)、タイ族。

Hoang Huu Nam

内務省次官(1946/ 3 -1955 初頭)

Hoang Minh Giam 1904/11/ 4 -1995/ 1 /12 ハノイ/ トゥーリエム

ハノイ師範高等学校を卒業後、1926年から28年までブノンペンのシソワット中学校で教師をし、その後31年まで、サイゴンの私立学校で教師をする。サイゴンで教師をすることをフランス当局から禁じられた後、ハノイに戻ってタンロン私立学校を創立、多くの愛国的、進歩的教師や学生を育てた。もともとはフランス語教師で、クオックゲー普及運動などで活躍した。30年代の人民戦線期から社会主義者。国会代表(国1 - 7:46-87)、八月革命後、46年3月まで内務省(現在の労働・傷病兵・社会省)事務局局長、その後、内務省次官。文化省大臣(1955/ 9 /20-1976/ 6)、外務省次官(閣僚)(1946/11/ 3 -1947/ 2)、外務省大臣(1947/ 3 -1954/ 4)、ベトナム社会党執行委員(47/ 7)、ベトナム社会党副書記長(-88/ 2)、リエンヴィエット戦線中央委員会常設委員(51/ 3)、ベトナム祖国戦線中央委員会主席団委員(55-94)、抗米戦争中にベトナムと各国人民との団結・友好委員会的主席団主席、ベトナム・インドネシア友好協会会長、ベトナムと米国人民との団結委員会主席を歴任。国会対外委員会委員長(76-82)、ハノイ師範高等学校卒。(ND.1995.1.14. 一部、資料⑦参照)

Hoang Minh Thang 1927 クアンナム・ダナン

国会代表(国7:81)、クアンナム・ダナン省党委書記・国会経済計画財政委員(81)、党中央正式委員(党5:82)、クアンナム・ダナン省党副書記兼人民委員会委員長(82)、国内通商省(1986/ 6 -1990/ 3)、党中央正式委員(党6:86)、国会代表(国9:87)、商業省(1990/ 3 -1991/ 8)

Hoang Quoc Thinh

国内通商省大臣代理(1966/10-67/11)、国内通商省大臣 1967/11-77/11)

Hoang Quy 1927 ハイフン

党中央正式委員(党 5 :82)、国家計画委員会第一副委員長(1983/10-1987/ 2)、党中央正式委員(党 6 :86)、財政省大臣(1987/ 2 -1992/ 5)

Hoang Tich Tri

医療省大臣(1946/11/ 3 -1959/ 5)

Hoang Trung Hai 1959/ 9 /27- タイビン /クインフー

1990 年 11 月 20 日入党。党中央委員(党 9 :01)、国会代表(国 11:02)、工業省次官(02/ 4)、工業省大臣(2002/ 8 現在)、修士。

Hoang Van Kieu 1921 ランソン

党民族委員長?、党中央候補委員(党 3 :60)、タイバック自治区副書記(60)、ランソン省人民委員会委員長(65)、林業省大臣(1976-1977/ 2)、党中央正式委員(党 4 :76)、国会代表(国 7 :81)、(政府)民族委員会委員長(1978/ 6 ?-1987/ 2)、タイ(Tay)族。

Hoang Van Phong

科学・技術省大臣(2002/ 8 現在)

Huyen Thien Loc

農業耕作省大臣(1946/ 4 -1946/11/ 2)

Huynh Cong So

国家監査委員会委員長(1988/ 5 -1989/ 4)

Huynh Tan Phat 1913-1989/ 9 /30 ベンチェ /ビンダイ

1945 年 3 月入党。八月革命以前から民主主義を要求する闘争に参加し、「クオックゲー(国字)普及」運動を行い、反仏、反日的傾向をもつ『タンニエン(青年)』紙の主任となる。「先鋒青年」運動の発展に寄与した。八月革命の際には、サイゴンの政権奪取に参加し、南部人民委員会の通信・マスコミ局副局長に就任。49 年以後、サイゴン・チョロン特別区抗戦行政委員会委員となる。57 年末、サイゴン・チョロン党委員会委員。60 年、サイゴン・チョロン区党委員会正式委員となり、知識人・ブルジョアの運動工作、民族戦線工作进行を担当。60 年末、南ベトナム民族解放戦線副主席。南ベトナム臨時革命政府主席(1969-1976)、国会代表(国 1 - 3、6 - 8 :46-68、76-89)、副首相(1976-1982/ 6)、ベトナム祖国戦線主席団委員(77)、国家基本建設

委員会委員長(1979-1982/ 6)。国家評議会副議長(82/ 6)、ベトナム祖国戦線主席団主席(83)、国家評議会副議長(87)、ベトナム建築士協会会長(87)、(ND.1989.10.2)

Huynh Thuc Khang 1876-1947/ 4 /21 クアンナム / ティエンフック

科挙試験(進士:ティエンシー / 科挙の最高位たる殿士合格者の肩書き)に合格(1904)した、20世紀初頭世代を代表する知識人活動家の1人。フランス統治下で1908年から1921年までの13年投獄される。釈放後、フエに拠点を置いて『ティエンザン(民の声)』紙を発行するなど、盛んな文筆活動を展開した。彼自身は共産主義者ではなかったが、その周囲には多くの青年活動家(共産党系を含む)が集まっていた。8月革命後、ベトミン政権に参加、無党派の長老として内務省大臣(1946/ 3 / 2-1947/ 4 /21)、46年、ホ・チ・ミンの渡仏中に一時、国家主席代理を務める。46年末の第一次インドシナ戦争勃発後、第5連区の政府代表に選ばれる。疎開先で病死。(⑦も参照)

Kha Vang Can 1908-1982/ 1 /17 ホーチミン / チョロン

南部抗戦委員会委員、サイゴン・チョロン人民委員会委員長、軽工業省大臣(1960-1975)。(ND.1982/ 1 /21)

Ksor Phuoc(Kpa Binh) 1954/ 8 / 8 / 2 ザライ / アユンパ

1980年8月6日入党。党中央委員(党9:01)、ザライ省党書記(02・4)、民族委員会委員長(2002/ 8現在)、安寧大学卒(02)

La Lam Gia(Bay May) 1920 ミンハイ

党中央正式委員(党4:76)、国会代表(国7:81)、食糧省大臣(1981/ 1-1984/ 6)、党中央正式委員(党5:82)

Lai Van Cu

政府事務局局長(1996/11-1999/ 3)

Le Duc Anh 1920 ツウアティエン

党中央正式委員(党4:76)、上将・国防次官・副参謀長・第9軍区司令官(76)、党政治局員(党5、6:82,86)、国防省大臣(1987/ 2-1991/ 7)、国会代表(国8:87)、大将・国防評議会メンバー(87)、党政治局員兼書記局員(党7:91)、国会代表(国9:92)、国家主席、国防安寧評議会議長(92)、党政治局常務(党8:96)、97年4中総で顧問に就任。

Le Duc Thinh 1927/ 7 /15-2001/ 2 / 7 フンイエン / ヴァンラム

1945年10月入党。フンイエン省党副書記(54/ 6)、ハイズオン省党副書記・書記代理・書記(54/ 7-56/11)を歴任、その後、左岸区党委員会事務局局長(56/12-58/12)、ハイフォン市党員

会委員・常務委員・私営商工業改造委員会委員長(59/ 1-65/ 9)。ハイフォン市党副書記兼行政委員会副委員長・委員長(65/10-76/ 6)、国内通商省次官・第一次官(76/ 7-81/ 8)、国家計画委員会副委員長(81/ 9-82/ 3)、党中央正式委員(党 5 :82/ 3)、国内通商省大臣(1982/ 4-1986/ 6)、党中央財政・管理委員会委員長(86/ 9-92)。(ND.2001.2.9)

Le Duc Thuy 1948/ 6 /30 ハティン / フオンソン

1973 年 11 月 23 日入党。党中央委員(党 9 :01)、国家銀行総裁(1999/12/11-2002/ 8 現在)。経済学博士。

Le Hong Anh 1949/11/12- キエンザン / ヴイントゥアン

1968 年 3 月 2 日入党。党中央委員(党 8 :96)、キエンザン省党書記(96)、党政治局員兼書記局員(党 9 :01)、党中央監査委員会副委員長(01)、国会代表(国 11 :02)、公安省大臣(2002/ 8 現在)、党政治局員兼書記局員(02)、党中央監査委員会委員長(02)、学士(法律)

Le Huy Ngo 1938 タインホア

党中央候補委員(党 6 :86)、党中央委員(党 7 :91)、タインホア省党書記(91)、党中央委員(党 8 :96)、党中央組織委員会副委員長(96)、国会代表(国 11 :97)、農業・農村発展省大臣(1997-2002/ 8 現在)、経済農業大学卒。

Le Khac 1916/ 2 / 6 - 1990/ 3 /13 ハノイ / タインチ

1947 年 2 月入党。八月革命前に橋・道路関連の技師となる学校を卒業後、1944 年にクアンガイとダナンで鉄道の技師となる。八月革命後にフエ第 2 区の汽車、46 年初頭にハノイ第 5 区の汽車を担当。第一次インドシナ戦争勃発後は国防省兵器局に配属される。47 年から 52 年、151 工兵連隊工兵局局長、同政治委員、同党委書記。53 年-58 年、交通・公共事業省交通局副局長、ベトナム鉄道総局副局長、同局長を歴任。58 年 6 月、国家計画委員会委員、59 年 1 月、国家科学委員会に転属。党中央候補委員(党 4 :76)、国会代表(国 7 :81)、外国貿易省大臣(1980/ 2 -1986/ 6)、国家科学・技術委員会委員長代理(1980/ 2 -1981)、国家科学・技術委員会委員長(1981-1982/ 4)、党中央正式委員(党 5 :82)。1985 年 1 月引退。(ND.1990/ 3 /15)

Le Liem 1922/ 2 / 6-1985/ 8 /30 ハタイ / トウオンティン

党中央候補委員(党 3 :60)、文教事務局局長(1963/ 1 -1965/10)、文化省次官、教育省次官も歴任。(ND.1985.9.1)

Le Minh Huong 1936 ハティン

党中央委員(党 7 :91)、国会代表(国 9 :92)、内務省次官(92)、国会国防安寧委員(92)、党政治局員(党 8 :96)、中將・内務省次官(96)、内務省大臣(1996/11-1998/ 5)。安寧大学卒(92)、中央公安学校卒業(97)。

Le Ngoc Hoan 1937/ 7 /15- ハタイ / チュオンミー

交通・運輸省大臣代理(1996/11-1997)、国会代表(国 10:97)、橋梁技師、交通・運輸省大臣(1997-2002/ 8)

Le Quang Ba (Dam Van Mong) 1915/ 4 /21-1988/ 3 /19 カオバン / ハクアン

1932年5月入党。貧しい農民の家庭に生まれる。1931年、青年革命同志会と青年共産団に参加。35年3月から37年9月、ハクアン州の州党委員会委員および青年団幹事会責任者。37年10月、家庭を離れ、ゲリラ活動に参加、中越国境で革命根拠地を建設した。40年10月、ホー・チ・ミンに会い、カオバンの秘密幹部と帰国し、バックボに根拠地をつくる任務を与えられる。以来、ハクアン州とカオバン省におけるホーの活動を防衛する責任者となる(41-45)。この期間には、カオバン省臨時党委員会委員やハクアン州党書記を務め、カオバン省最初のベトミンゲリラの隊長を兼任した。44年6月から45年3月にはカオ・バック・ラン省党委員会常務委員となり、軍事工作の責任者となった。45年4月、武装勢力を指揮してバンハイン、ハザンにおける革命根拠地を建設。八月革命後、ホー・チ・ミンの特派員としてバクザン省、ランソン省、カオバン省の衝突事件を解決。その後、46年3月まで第1区司令官。46年4月から48年5月までハノイ特別区区長・第12区区長。さらに、ベトバック連区司令官となり、316大隊隊長(51/ 5 -55/10)、ベトバック軍区司令官(55/11-60/ 5)を歴任。少将(60)。60年以降は、党中央民族委員会委員長、政府民族委員会委員長(1960-1977/ 2)兼開墾総局局長、ベトナム祖国戦線主席団員、党中央監査委員会委員・農業委員会副委員長・定耕定居委員会委員長を歴任。党中央正式委員(党3:60)、国会代表(3- 5:64-76)、81年11月、引退。タイ族。(ND.1988.3.20)

Le Thanh Nghi 1911/ 3 / 6-1989/ 8 /16 ハイフン / トゥーロック

1930年入党。1925年から1930年に電気工として働く。28年、ベトナム青年革命同志会に参加。第一次インドシナ戦争中は、第3連区の指導者の1人として革命を指導。46年12月、第3区党書記兼同区抗戦委員会委員長。48年初めに、第3連区党副書記、51年、同連区党書記兼抗戦行政委員会委員長、同連区司令部政治委員。53年から54年はハノイ市党書記を兼任。工業省大臣(1955/ 9 -1960?)、副首相(1960-1981)、工業事務局局長(1960-1969/12)、国家基本建設委員会委員長(1960-1964)、党中央工業委員会委員長(67)、重工業省大臣(1967/ 2 -1967/11)、国家計画委員会委員長(1974/ 3 -1980/ 2)、政治局員(党2- 4、1951-1982)、国会代表(1960-1987)、国家評議会副議長(81)。(ND.1989.8.18)

Le Thi Thu

人口・家族・児童委員会委員長(閣僚)(2002/ 8現在)

Le Van Hien 1904/ 9 /15-1997/11/15 ダナン市 / ホアヴァン

1945年10月入党。1927年、ダナンでベトナム青年革命同志会に加入。28年クアンナム省委

員。30 年-35 年、フランス当局に逮捕・投獄される。35 年-38 年には、公開活動を行うと同時に、党の財政工作に秘密裏に従事。39 年 2 月-10 月、40 年 5 月-45 年初めまで、フランス当局に逮捕・投獄される。八月の蜂起準備の過程では、タンチャオの会議で民族解放委員会のメンバーに選出され、ダナン蜂起委員会委員長となる。ダナン市人民委員会委員長兼人民裁判所長(45/ 8-45/ 9)、労働省大臣(1945/ 9 / 2-1946/ 3 / 1)、国会代表(国 1 - 3 :46-71)、財政省大臣(46/ 3 / 2-1958/ 6)、国家計画委員会副委員長(1958/12-1959/ 5 /27)、無任所大臣(国家計画委員会副委員長として)(1960-1962)、在ラオス・ベトナム大使(62/10-76/ 9)、77 年 10 月引退。77 年-93 年、タンロン退職幹部クラブの主任。(ND.1997.11.18)

Le Van Triet 1930 ティエンザン

国会代表(国 7 :81)、機械冶金省次官兼電子企業連合総裁(81)、国会経済計画財政委員会副委員長(81)、党中央候補委員(党 5 :82)、党中央正式委員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)、国会経済計画財政委員会委員(87)、ホーチミン市党副書記兼人民委員会副委員長(87)、党中央委員(党 7 :91)、工業省第一次官(91)、商業・観光省(大臣 1991/ 8-1992)、商業省大臣(1992-1997)

Le Viet Luong 1900/ 3 /26-1985/ 7 /10 ハティン / カンロック

1930 年入党。中圻党委員会委員、ゲアン省行政委員会委員長、第 4 連区行政委員会委員長、ベトナム国家銀行副総裁(1951/ 5-1955)、ベトナム国家銀行総裁(1960-1963/ 1)、国家計画委員会副委員長などを歴任。(ND.1985.7.12)

Le Xuan Trinh 1933 クアンナム・ダナン

党中央正式委員(党 7 :91)、国家計画委員会副委員長(91)、国会代表(国 9 :92)、政府事務局局長(1992/10-1996/11)、国会対外委員会委員(92)。国民経済大学卒。

Lu Minh Chau 1929 ミンハイ

ベトナム国家銀行総裁(1986/ 6-1989/ 4)、党中央正式委員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)

Mai Ai Truc

資源・環境省大臣(2002/ 8 現在)

Mai Chi Tho 1922 ハナムニン

国会代表(国 7 :81)、ホーチミン市人民委員会委員長(81)、国会経済計画財政委員会委員長(81)、党中央正式委員(党 5 :82)、党政治局員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)、内務省大臣(1987/ 2-1991/ 7)

Mai Ky

人口・家族計画工作担当大臣(1992/ 3 -)、人口・家族計画国家委員会委員長(1992-1997)

Nghiem Xuan Yem 1913/ 3 /10-2001/ 3 /18 ハノイ/ トゥーリエム

ハノイ農林大学卒業後、フランス植民地主義者の下で働くことを嫌い、教員となる。ベトミンの運動に参加し、1944年6月には、ベトナム民主党に参加。農業耕作省次官(1947-1953)、ベトナム民主党中央委員会委員(50-58)、農業耕作省大臣(1954/ 3 -1955/ 9 ?)、農林省大臣(1955/ 9 -1960?)、国会代表(国 2 - 8 :60-92)、ベトナム民主党総書記(58-88)、農業省大臣(1960-1963/ 1)、農場省大臣(1963/ 1 -1971/ 4)、中央農業委員会常任副委員長(閣僚)(1971/ 4 -1976)、農業科学技術担当大臣(1976-1981)、国会副主席、ベトナム祖国戦線主席団委員・同名誉委員(82-87)。ハノイ農林大学卒、農学技師。(ND.2001.3.20)

Ngo Minh Loan 1915-2001/ 2 /14 ゲティン/ クインリュウ

1930年より革命に参加、ヴィンの汽車工場と電気工場で働く。39年、ハイフォンで革命活動をするが、39年12月、フランス当局に逮捕・投獄される。45年2月、出獄してから、党中央によりフート省・イエンバイ省の両省党書記に指名された。その後、46年5月、ラオカイ省幹事会書記、47年3月、バクニン省党(部)書記、1948年2月、第3(軍)区党委副書記、54年、ベトナム人民軍軍法局局長兼ベトナム人民軍防衛局局長、58年、公安省経済防衛局長。党中央候補委員(党 3 :60)、工業省次官。67年、在中国大使、69年、食糧・食品省大臣(1969/12-1979/ 4)、国会代表(国 4 - 6 :71,75,76)、中央農業委員会副委員長(閣僚)(1975-1976)、79年、閣僚評議会直属の国営企業管理改善委員会委員長。(ND.2001.2.14)

Ngo Tan Nhon

経済省大臣(1946/ 3 / 2 -1951/ 5 ?)、農業耕作省大臣(1946/11/ 3 -1954/ 3)

Ngo Xuan Loc

党中央候補委員(党 6 :86)、建設省大臣(1989/10-1997)、党中央委員(党 7、8 :91,96)、副首相(1997-1999/12/11)

Nguyen Canh Dinh 1934 ゲティン

水利・電力省(1981/ 1 -1995/10)、党中央候補委員(党 5 :82)、党中央正式委員(党 6、7 :86,91)、国会代表(国 8、9 :87,92)、ベトナムのメコン河委員会委員長(1995/10-1997?)、党中央委員(党 8 :96)、国会代表(国 10 :97)、国会事務局局長(97?)。水利大学卒。

Nguyen Chan 1924/ 9 / 2 -1994/12/ 3 バクニン/ トゥーソン

1941年8月入党。45年10月-55年2月の間に、バクニン省党書記、イエンバイ省党書記、ヴィンイエン省党書記、第10区党事務局長、タイバック区党委委員。55年3月-58年12月、ベト

ナム祖国戦線中央委員会書記局員、世界平和評議会委員。58 年 12 月からフート省党書記兼行政委員会委員長。60 年-82 年、重工業省次官、党中央工業委員会副委員長、化学総局長兼同党団書記などを歴任。国会代表(国 4 :71)、電気・石炭省大臣代理(1974/ 4 -1975)、電気・石炭省大臣(1975-1981/ 1)、党中央委員候補(党 4 :76)、国会代表(国 6 :76)、炭鉱・石炭省大臣(1981/ 1 -1987/ 2)、党中央経済委員会副委員長 882-86)、党中央委員候補(党 5 :82)。技師。(ND.1994.12.6)

Nguyen Chi Vu

党中央候補委員(党 5 :82)、軽工業省大臣(1982/ 4 -1987/ 2)、党中央候補委員(党 6 :86)

Nguyen Co Thach 1921 - 1998/ 4 /16 ナムディン / ヴーバン

1943 年入党。1937 年、ナムディンで民主青年組織に参加した後、反帝青年組織に参加。40 年、フランス当局に逮捕・投獄される。43 年、ソンラ刑務所内で入党。45 年 8 月、ヴァンバン県での政権奪取を指導。同年 9 月、国防省で活動し、ヴォー・グエン・ザップを補佐する書記となる。47 年、党中央軍事委員会事務局長となり、国防省及び総司令部の各機関党委員会書記となる。49 年、ハドン省党副書記、同省党書記代理となり、その間に同省抗戦・行政委員会委員長を兼任した。51 年、第 3 連区抗戦・行政委員会委員および同委員会党団委員、第 3 連区の各機関党団書記となる。54 年、外務省事務局長となり、56 年にはインド総領事となった。60 年、外務省次官および同省党団委員となり、61 年にはラオスに関するジュネーブ会議でベトナム政府代表団団長となった。64 年、外務次官として抗米闘争の責任者となる。72 年からパリ和平協定締結まで、パリ和平会談におけるレ・ドゥック・トの補佐官となる。75 年、ペルーでの非同盟諸国外相会議でベトナムの代表団団長。76 年-80 年、アラブ諸国、西ヨーロッパ・北欧諸国、アセアン諸国訪問の政府特派員となる。79 年から 86 年の間、コロンボ、ニューデリー、ルアンダにおける非同盟諸国外相会議のベトナム代表団団長を務め、79 年からは毎年、ニューヨークでの国際連合総会にベトナム代表団団長として参加した。外務省次官(76)、党中央正式委員(党 4 :76)、外務省無任所大臣(1976-1981)、外務省大臣(1980/ 2 -1991/ 7)、同省党幹事会書記、党政治局候補委員(党 5 :82)、党政治局正式委員(党 6 :86)、副首相(1987/ 2 -1991/ 8)、90 年 3 月、党中央対外委員会に責任を持つ党政治局員となる。91 年 10 月、政治局より外交工作総括研究、世界経済・対外戦略研究に参加することを分担される。国会代表(国 7,8 :82-91)。(ND.1998.4.14)

Nguyen Con 1917 ゲティン

国会代表(国 2 :60)、中央正式委員(党 3 :60)、国家計画委員会委員長(1965/ 4 -1973/ 6)、副首相(1967/11-1976)、機械・冶金省大臣(1974/ 3 -1977/11)、中央正式委(党 4,5 :76,81)、党経済委委員長

Nguyen Cong Tan 1935 タイビン

党中央正式委員(党6:86)、農業・食品工業省大臣(1987/2-1995/10)、国会代表(国8:87)、党中央委員(党7:91)、国会代表(国9:92)、農業・農村発展省大臣(1995/10-1997?)、党中央委員(党8:96)、国会代表(国10:97)、副首相(1997-2002/8現在)。農業大学卒。

Nguyen Danh Thai

体育・体操委員会委員長(閣僚)(2002/8現在)

Nguyen Dinh Loc 1935/9/13- ゲアン / ジエンチャウ

1963年12月7日入党。国会代表(国9:92)、司法省大臣(1992/5-2002/8)、国会代表(国10、11:97、02)。法学修士(92)、法学博士(02)。

Nguyen Dinh Tu 1932/10/1-1996/6/28 ハティン / カンロック

1949年12月4日入党。1948年9月-54年7月、ハティン省のフィン・トゥック・カン専科学校学習・競争委員、同省のチャン・フー文化補足学校校長委員会内で党支部委員、中文学校救国青年団支部書記などを歴任、54年8月-57年7月、中国の武漢に留学、ベトナム人学生団の責任者。57年8月-63年3月、ソ連の核研究院で工作するベトナム人幹部団の責任者。63年4月-66年4月、国家科学技術委員会の数理研究部門の責任者、ベトナム物理学会副会長。66年5月-71年6月、ソ連の核研究院で工作するベトナム人幹部団の責任者およびその党支部書記。71年7月-76年6月、ハノイ総合大学党委員会書記、同大学副学長。大学・専門中学・職業学校省次官(76/3-76/7)、大学・専門中学・職業学校省大臣(1976/7-1987/2)、同省党幹事会書記、中央候補委員(党4、5:76、82)、国会代表(国6、7:76、82)、党中央正式委員(党6:86)、物理学教授(80)、国会代表(国8:87)、国会科学技術委員会委員長(87)、国家原子力エネルギー院長(87、91)、国家評議会委員(87、91)、党書記局員(党7:91)、党政治局員(党8:96)、党中央科学委員長(96)。(ND.1996.7.3)

Nguyen Duy Gia

ベトナム国家銀行総裁(1981/2-1986/6)

Nguyen Duy Trinh 1910/7/15-1985/4/20 ゲアン / ギロック

1930年入党。1927年より革命に目覚め、ヴィン市で政治活動の自由を求める運動などに参加する。28年、新越革命党に入党。その後、サイゴン市で活動をするが、フランス当局に逮捕・投獄される。30年にはゲアン省の支部党書記、30-31年にギロック県党書記、32年、フランス当局に再逮捕され、35年にはコンダオへ移送される。そこで、支部党書記となる。45年5月釈放されると、ヴィン市とフエ市における蜂起に参加。45年の八月革命後は、中部党常務委員に選出され、中部行政委員会副委員長となる。第1次インドシナ戦争中は、第5連区の指導者の1人となり、49年からは、第5連区党書記兼中部南方抗戦・行政委員会委員長。

党中央正式委員(党 2 :51)、党中央事務局長(55 末)、党書記局員(55 年 8 月)、政治局員(56 年)、首相府大臣(1958/ 4 -1958/12)、国家計画委員会副委員長(閣僚)(1959/ 5 -1960)、国会代表(2 - 7 :60,64,71,75,76,82)、副首相(1960-1980/ 2)、党政治局員(党 3 :60)、国家計画委員会委員長(1960-1965/ 4)、その後、国家科学委員会委員長(1963/ 1 -1965/10)に就任。外務省大臣(1965/ 4 -1980/ 2)、政治局員兼書記局員(党 4 :76)、党中央正式委員(党 5 :82/ 降格人事?)、この間、国会代表を務める(国 1 - 7 :46-85)(ND.1985.4.22)

Nguyen Dy Nien 1935/12/ 9 - タインホア / ホアンホア

1964 年 6 月 16 日入党。党中央委員(党 7 :91)、外務省次官(91)、党中央委員(党 8 :96)、外務省次官(96)、外務省大臣(2000/ 1 /28-2002/ 8 現在)、党中央委員(党 9 :01)、国会代表(国 11 :02)。文学修士。

Nguyen Hai Than 1879-1955

20 世紀初頭以来の古参の活動家。中国での亡命生活が長かった。太平洋戦争中に中国で反ベトミン系のベトナム革命同盟会を結成。戦後、中国軍とともに帰国し、ベトミン抗戦連合政府に副首相(1946/ 1 / 1 -1946/11/ 2)として参加。しかし、その後間もなく(3 月末)中国に再び亡命。広州で客死した。(資料⑦参照、資料①と副首相の就任期間に矛盾あり)

Nguyen Hong Quan

党中央委員(党 9 :01)、建設省次官(01)、建設省大臣(2002/ 8 現在)

Nguyen Huu Khieu

国会代表(国 2 :60)、党中央候補委員(党 3 :60)、労働省大臣(1965/10-1974/ 4)、党中央正式委員(党 4 :76)

Nguyen Huu Mai 1915 クアンチ

党中央候補委員(党 3 :60)、重工業省大臣(1967/11-1969/12)、電気・石炭省大臣(1969/12-1974/ 4)、国会代表(国 7 :76)、党中央正式委員(党 4 :76)、国家計画委員会副委員長(1975-1980/ 2)、駐ソ大使(82・3 現在)

Nguyen Huu Thu 1926 ハソンビン

国会代表(国 3 - 6 :64,71,75,76)、党中央候補委員(党 4 :76)、国会代表(国 7 :81)、党中央正式委員(党 5 :82)、閣僚評議会総書記(1982/ 4 -1984/ 5)、閣僚評議会事務局局長(1982/ 4 -1984/ 5)

Nguyen Khang 1919-1976/12/10 タイビン / キエンスオン

1938 年入党。もともと愛国心豊かな学生で、早くから革命に目覚めた。37 年-38 年、タイビン

省キエンソオン県にあった北圻党委員会の秘密印刷機関で活動をし、39年、ハノイ市に入る。そこで、ハノイ市反帝青年団責任者、ハノイ市、ハドン省、ソントイ省、バクニン省からなる各省連合反帝青年団執行委員会書記兼同青年団党団書記となり、さらにハノイ市党常務委員となって青年の運動、『先鋒』紙、およびザラム汽車工場グループの責任者となる。41年、フランス当局に逮捕・投獄されるが、44年脱獄し、北圻党委員会常務委員となってハドン省、ソントイ省、北圻党委員会安全区の責任者となるとともに、『救国』紙の編集員となる。45年、ハノイ市、ハドン省、ソントイ省の各省・都市、『国の魂』紙、ハノイ名誉隊の責任者となった。八月革命の際には、北圻党委員会を代表して若干の省で蜂起を指導し、8月19日にはハノイの政権奪取を直接指導した。46年-50年、北圻党委員会副書記、第12区抗戦・行政委員会党書記兼委員長、第1連区抗戦・行政委員会党副書記兼委員長、ベトバック連区党書記を歴任。51年、党中央候補委員(党2:51)となり、党中央事務局責任者となる。57年-60年、中国大使、モンゴル大使、首相府大臣(1959/5-65/4)を歴任、国会代表(国2:60)、党中央正式委員(党3:60)。(ND.1976.12.11&1976.12.13)

Nguyen Khanh 1928 バックタイ

党中央候補委員(党5:82)、党書記局員(党6:86)、副首相兼閣僚評議会総書記(1987/2-1997)、国会代表(国8:87)、党中央委員(党7:91)、国会代表(国9、10:92、97)。哲学大学卒(97)

Nguyen Khanh Toan (Hong Linh) 1905/8/1 - 1993/12/9 ゲアン/ヴィン市

1931年入党。知識人の家庭に生まれる。1924年、ハノイで文科の学生であった頃から反帝国主義の闘争に参加。26年、フランス当局に逮捕・投獄される。28年、釈放された後、フランスに留学し、そこで愛国的な越僑運動を行う。29年、フランス共産党の紹介でソ連の党学校に留学。30年、コミンテルン東方部の紹介で東方大学の歴史学の研究生となる。31年、共産党に入党。39年、中国の延安でベトナム共産主義者と共に活動。45年末、帰国して党の訓練クラスで哲学やマルクスレーニン主義を講義した。教育省次官(1946/11/3-1955)、51年から教育省党団書記。59年、国家科学委員会副主任となる。国会代表(国2,3:60,64)、海外文化連絡委員主任(60)・党中央青少年委員主席(60)。党中央候補委員(党3:60)、再び教育省次官(62)、党中央文教委員会副委員長(64)、教育改革評議会委員(64)、ベトナム社会科学委員会委員長(65-82)、史学院院長・ベトナム民間文芸会議主席・史学会名誉主席なども歴任した。(ND.1993.12.11)

Nguyen Khoa Diem 1943 ツウアティエンーフエ

党中央委員(党8:96)、文化・情報省次官(91)、文化・通信省大臣(1996/11-2002/8)、国会代表(国10:97)。師範大学卒。

Nguyen Ky Cam 1929 ゲティン

国会代表(国 7 :81)、党中央正式委員(党 5 :82)、ゲティン省党副書記兼人民委員会委員長(82?)、労働・傷病兵・社会省大臣(1987/ 2-1989/ 4)、国会代表(国 8 :87)、国家監査委員会委員長(1989/ 4-1995/10)、党中央委員(党 7 :91)、反汚職・密輸工作指導委員会常任委員長(閣僚)(1995/11-1996/11)

Nguyen Lam 1921/12/31 - 1990/ 4 /31 ハナム / ズイティエン

1943 年 3 月入党。1937-38 年、マルクス主義研究グループに参加し、民主青年団に入る。39 年、反帝青年団組織で秘密の活動を行う。40 年、フランス当局に逮捕・投獄される。43 年 3 月、ソンラ刑務所支部により入党を認められる。45 年 3 月 9 日、ハノイのホアロー刑務所を脱獄、党中央の根拠地工作隊で活動。45 年 8 月、ヴィンイエン省イエンラン県(現在のハノイ市メリエン県)で蜂起に参加、同県党書記兼臨時革命人民委員会委員長となる。その後、ハノイ市党委員会に参加し、青年工作进行。さらに、北圻救国青年団常務委員となる。46 年、ナムディン省党書記に指名され、47 年、北圻党委員会委員となり、ナムディン省とタイビン省の 2 省を担当。その後、第 2 区党委員会委員となり、ナムディン省、ハナム省、ニンビン省を担当。47 年末、第 14 区(タイバック区)党書記および同区抗戦・行政委員会委員、48 年、第 10 連区党委員会委員に指名され、フート省、ヴィンフー省を担当。その後、同連区民衆運動委員会委員長を経て、党中央民衆運動委員会での工作に従事。49 年-60 年、党中央青年運動委員会委員長、ベトナム救国青年団党書記、ベトナム労働青年団中央執行委員会第一書記を歴任。党中央正式委員(党 3 :60)、ハノイ市党書記(60)、国会代表(国 3,5,6 :64,75,76)、66 年-69 年、軽工業省次官兼同省党団書記。国家計画委員会副委員長(閣僚)(1969/12-1973/ 6)、国家物価委員会委員長(1971-1974/ 3)、国家計画委員会委員長(1973/ 6-1974/ 3)(1980/ 2-1982/ 4)、ハノイ市党書記(74-76)、党書記局員(党 4 :76)、党中央工業委員会委員長(76)、国会代表(国 7 :81)、副首相(1980/ 2-1982/ 4)、党書記局員(党 5 :82)、党中央経済委員会委員長(82)。(ND.1990.4.3)

Nguyen Luong Bang (Sao Do) 1904 - 1979/ 7 /21 ハイゾン / タインミエン

伝統的愛国者の貧しい家庭に生まれる。成長して水夫となる。1925 年、中国の広州でホー・チ・ミンに会い、革命活動を始め、青年革命同志会に加入し、帰国して活動する。ハイフォンで労働運動を行い、労働者を組織する、その後、サイゴンへ移動し、労働運動と青年運動を行う。28 年、ハイフォンに戻り、引き続き労働運動を行い、その後、革命組織より香港、広州、上海へ派遣され活動する。そして、中国におけるベトナム人最初の共産主義グループに参加した。31 年、フランス当局の密偵に逮捕され、帰国・投獄された。32 年、脱獄したが、33 年に再逮捕され、43 年には再び脱獄。この間、ソンラ刑務所で多くの革命戦士を育てた。44 年、党中央候補委員となり、財政工作と民衆運動工作の責任者となる。そして、ベトミン戦線の指導者の 1 人となり、ベトミン戦線総部の財政省大臣となる。45 年、党全国会議で、党中央正式委員となり、タンチャオの国民会議では全国解放民族委員会の委員に選出された。八月革命後、連続して党中央正式委員(党 2、3、4 :51,60,76)に選出され、第 3 回党大会から第 4 回

党大会までは党中央の中央監査委員会委員長を務めた。その間に、ベトナム国家銀行総裁（1951/ 5 -1955）、ソ連大使、政府監査委員会委員長（Chu nhien）（1960-1964）、政府監査委員会委員長（Tong Thanh tra）（1964-1969/ 9）などを歴任。また、第3期第5次国会以来、国家副主席に選出されてきた。国会代表（国2、4-6、:60、71,75,76）。（ND.1979.7.21）

Nguyen Manh Cam 1929 ゲアン

党中央正式委員（党6 :86）、駐ソ・ベトナム大使（87）、党中央委員（党7 :91）、外務省大臣（1991/ 8 -2009/ 1 /28）、国会代表（国9 :92）、国防安寧会議委員（92）、党政治局員（党8 :96）、国会代表（国10 :97）、副首相（1997-2002/ 8 現在）、国防会議メンバー（97）。外国文学歴史大学卒（92）（97）

Nguyen Manh Ha

カトリック系の活動家。ベトミンにとって、カトリック教徒を動員するための中心人物の1人であった。妻はフランス人でフランス共産黨員。国家経済省大臣（1945/ 9 / 2 -1946/12/31）、工商業省次官（1951/ 5 -1955/ 9）、50年頃には海外に脱出、以降フランスもしくはスイスで亡命生活を送る。（一部、資料⑦参照、海外亡命の時期については資料①と矛盾がある）

Nguyen Manh Kiem

建設省大臣（1997-2002/ 8）

Nguyen Minh Hien 1948/ 2 / 1 - タイビン / キエンスオン

1981年8月26日入党。党中央委員（党8 :96）、ハノイ百科大学学長（96）、教育・養成省大臣（1997-2002/ 8 現在）、党中央委員（党9 :01）、国会代表（国11 :02）。助教授・博士（02）

Nguyen Ngoc Triu 1926 タイビン

タイビン省党書記（76?）、農業省大臣（1979-1987/ 2）、国会代表（国7 :81）、党中央正式委員（党5 :82）、副首相（1987/ 2 -1988/ 5）、国会代表（国8 :87）、ラオス・カンボジア経済文化協力委員会委員長（87?）、中央農業委員会委員長（90.8?）

Nguyen Quang Ha

林業省大臣（1992-1995/10）

Nguyen Quang Lam (Tam Tu, 本名、Nguyen Hoang) 1919/12/30 — 1990/10/17 クアンナム / タムキ

1945年8月入党。1936年-39年、クアンガイ省の民衆運動に参加。41年、秘密でベトミンの活動に参加。42年、フランス当局に逮捕・投獄される。翌43年、出獄し、クアンガイ省トゥーギ

ア県で引き続きベトミン活動に参加。45 年、クアンガイ省ベトミン副主任、46 年-54 年、クアンガイ省党常務委員、同省抗戦・行政委員会副委員長、その後、第 5 区財政局局長などを歴任。55 年-59 年、クアンガイ省党書記、61 年 10 月、第 5 区党委員会委員、62 年-68 年、南部中央局経済財政委員会副委員長、70 年 3 月-75 年、第 5 区党常務委員、中部中区(khu trung trung bo)革命人民委員会副委員長、国会代表(国 5 :75)、党中央正式委員(党 4 :76)、76 年 2 月、海産省次官、海産省大臣(1977/ 2 -1977/11)。78 年 3 月からギアビン省党書記、83 年 3 月、党中央経済委員会副委員長、85 年、引退。(ND.1990.10.19)

Nguyen Sinh Hung 1946 ゲアン

党中央委員(党 8 :96)、財政省次官(96)、財政省大臣(1996/11-2002/ 8 現在)、国会代表(国 10:97)、党中央委員(党 9 :01)。経済学修士。

Nguyen Tan Dung 1949 カーマウ

党中央候補委員(党 6 :86)、党中央委員(党 7 :91)、キエンザン省党副書記兼人民委員会委員長(91)、副首相(1997-2002/ 8 現在)、ベトナム国家銀行総裁(1998/ 5 -1999)、党政治局員(党 8 :96)、内務省次官・政治局常務(96)、国会代表(国 10:97)、党中央経済委員長(97)。法律学士・政治理論上級。

Nguyen Tan Trinh 1936 クアンナム・ダナン

水産省(1981/ 1 -1996/11)、国会代表(国 7 :81)、党中央正式委員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)

Nguyen Thanh Binh 1918 ハバック

党中央候補委員(党 3 :60)、国会代表(国 3 - 6 :64-82)、国内通商省大臣代理(1961/ 2 -1963/ 1)、国内通商省大臣(1963/ 1 -1966/10)、財政・商業事務局事務局長(1966/ 4 -1969/12)、国家物価委員会委員長(1966/10-1967/11)、政府監査委員会委員長(1969/12-1974/ 3)、水利省大臣(1973/ 6 -1981/ 1)、党中央正式委員(党 4 :76)、党書記局委員(党 5 :82)、党政治局員(党 6 :86)、ハノイ市党書記(87)

Nguyen Thi Binh 1927 クアンナム・ダナン

国会代表(国 7 :1981)、教育省大臣(1976-1987/ 2)、党中央正式委員(党 5 :82)、ベトナム婦人連合会副会長(?)

Nguyen Thi Hang 1944 タインホア

国会代表(国 7 :81)、国会科学委員会委員(81?)、党中央委員(党 6 - 8 :86,91,96)、労働・傷病兵・社会省次官(91,96)、労働・傷病兵・社会省大臣(1998/ 1 -2002/ 8 現在)

Nguyen Tho Chan

労働省大臣(1974/ 4 -1981/ 2)

Nguyen Trong Nhan 1930 ハナム

党中央候補委員(党 6 :86)、党中央委員(党 7 :91)、ベトナム赤十字会会長(91)、国会代表(国 9 :92)、医療省大臣(1992/ 9 -1995/10)、中央 Vien mat 院長、ベトナム医薬学総会副会長、国会代表(国 10:97)。医師・教授・医学修士、労働英雄(92)、民間薬剤師(97)。

Nguyen Tuong Long

国民経済省大臣(1946 年 1 月 1 日-1946 年 3 月 1 日)

Nguyen Tuong Tam 1906-1963

ニャット・リンの筆名で知られる小説家(とりわけ 1930 年代の作品群が有名)。その後、反ベトナム系の政客となった。40 年に親日的な大越民政党を結成したが、フランスの弾圧を逃れて中国に亡命、ベトナム国民党に合流した。戦後、中国軍とともに帰国し、46 年にベトナム政府の外務省大臣(1946/ 3 / 2-1946/11/ 2)に就任、5 月末、中国に再び亡命した。54 年ジュネーヴ協定後、南ベトナムに戻ってサイゴンに居住。しかし、ゴー・ディン・ジエム政権反対運動のために迫害され、63 年抗議の服毒自殺を遂げた。(資料⑦参照。外務省大臣の就任期間について、資料①と差異がある)

Nguyen Van Chinh 1924 ホーチミン

党中央正式委員(党 5 :82)、ロンアン省党書記(82)、食糧省大臣(1984/ 6 -1987/ 2)、党中央正式委員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)、副首相(1987/ 2 -1988/ 5)、国家監査委員会(1987/ 2 -1988/ 5)、党中央委員(党 7 :91)、党組織員会第一副書記(91)、国会代表(国 9 :92)、ベトナム農民連合会会長(92)、国会経済財政委員会委員(92)

Nguyen Van Hieu 1938(?) ハソンビン(?)

文化省大臣(1977/?- 1977/ 7)、文化・通信省大臣(1977/ 7 -1986/ 6)、党中央候補委員(党 5 :82)、党中央正式委員(党 6、7,8:86,91,96)、国会代表(国 8、9,10:87,92,97)、Vien si・教授・博士(87,97)、ベトナム科学院院長(87,91,92)、国会対外委員会委員(86,97)、92,97)、国家自然科学・技術センター所長(96,97)。物理博士・教授、ベトナム・、ロシア科学アカデミー会員、第 3 世界科学アカデミー会員、NY 科学アカデミー会員(92)。

Nguyen Van Huong (Nguyen Thanh Tam) 1906/12/24-1998/ 8 /? アンザン/チョーモイ

1953 年 7 月 3 日入党。1932 年、フランスにおいて医学博士号を取得。45 年、革命活動に参加。南部人民委員会顧問評議会メンバーとなる。45 年 9 月、南部医療局の医療・調剤委員会委員長。国会代表(1 - 3 :46-75)、南部抗戦・行政委員会委員兼南部軍人医療局局長(47/ 3)、303

病院院長(55/ 7)、細菌学院院長(56/ 5)、東洋医学研究院院長(58-59)、国会常務委員会委員(56)、国会常務委員会副主席(60-71)、医療省大臣(1969/ 3-1974/ 4)、医療省党団書記(70)、ベトナム祖国戦線中央委員会主席団委員。医学博士(32)(ND.1998.8.6)

Nguyen Van Huyen 1908/11/16-1975/10/29 ハノイ

ハノイの公務員の家庭に生まれる。八月革命前の一時期に教職に就き、その後、歴史学、民族学の研究に専念。革命前の研究テーマと内容は民族文学とベトナム農村であった。八月革命後、革命の道を歩み出した。国会代表(国 2- 5:46-75)、教育省大臣(1946/11/ 3-1975/10)、ベトナム祖国戦線中央委員会主席団委員、歴史科学研究会副会長、ベトナム・中国友好協会副会長(75)、文科博士。(ND.1975.10.25)

Nguyen Van Kha

国家計画委員会(1969/12-1974/ 6)、機械・冶金省大臣(1977/11-1987/ 2)

Nguyen Van Loc 1914/ 3 /14 - 1979/ 9 /24 ハタイ / ウンホア

1932 年入党。18 才から革命に参加。1942 年-44 年、ハドン省党委委員、ソントイ省、ハドン省党書記。45 年-46 年、北圻党委委員・ハドン・ソントイ省担当、その後、タイグエン・バクカン省担当、47 年-56 年、第 2 連区党副書記、第 3 連区党書記兼行政委員会委員長を歴任。水利省次官(57-58)・同省党団書記。党中央候補委員(党 3:60)。61 年より、農業省党団書記、農業省次官、農業省大臣(1967/11-1971/ 4)、中央農業委員会副委員長(1971/ 4-1974/ 3)、政府監査委員会委員長(1974/ 3-1976) 同委員会幹事会書記。77 年、健康上の理由で退職。(ND.1979.9.24)

Nguyen Van Tao 1908-1970/ 8 /16 ホーチミン / チョロン

1927 年、フランス共産党に入党。貧しい儒者の家庭に生まれる。コミンテルン第 6 回大会にフランス共産党代表団の一員として参加。その後、フランス共産党中央委員に選出される。1930 年、フランス当局に帰国させられる。帰国後はサイゴンで活動。勤労人民の代表として、サイゴン市の評議会に 2 回当選(1933 年と 1935 年)、36 年以降、フランス当局に 2 度逮捕・投獄されていたが、更に 39 年から 44 年まで逮捕・投獄された。出獄後もラクザー省で禁足された。45 年の八月革命の際には、サイゴンで蜂起に参加、南部臨時人民委員会委員となる。国会代表(国 1:46)、北部へ移動(46)、労働省大臣(1946/11/ 3-1965/10)、党中央の労働運動小委員会委員(47)、北部へ集結する南部同胞歓迎委員会委員長(54)、内政事務局(1965/10-1971?)、国会の統一委員会委員長(70/ 6)。(ND.1970.8.20)

Nguyen Van To ?-1947

社会救済省大臣(1945/ 9 / 2-1946/ 3 / 1)、無任所大臣(1946/11/ 3-1947)

Nguyen Van Tran 1917 ハバック

中央事務局長(54)、国家計画委員会委員長(1958/ 4-1958/12)、国家計画委員会副委員長(1958/12-1960)/ 交通・郵政省大臣(1955/ 9-1960?)、重工業省大臣(1960-1967/ 2)、党書記局員(党3:1960)、副首相・国家計画委員会委員長兼国科学委員会委員長(63～64)、中央経済管理研究院院長(76)、経済管理院院長(78/ 5—81?)、党中央政府経済社会戦略研究所常務委員(82)、国会計画・予算委員会委員長(?)

Nguyen Van Vinh 1928?-1978/ 6 /16

ベトナム人民軍少将、国防省次官、統一委員会委員長(1960-1974/ 3)、党中央候補委員(党3:60)。(ND.1978.6.18)

Nguyen Van Xuan

無任所大臣(1945/ 9 / 2-1946/ 3 / 1)

Nguyen Xien 1907/ 7 /27-1997/11/ 9 ゲアンノヴィン市

1945年8月、北部行政委員会委員長兼初代気象庁長官。46年、ベトバック戦区に赴き、基礎科学学校と上級師範学校の建設に参加し、この2校で講義を行う。ホー・チ・ミンの勧めに従い、社会党内での活動に参加(46)、国会代表(国1-8:46-92)、全国リエンヴィエット委員会委員、社会党副総書記(47-56)、ベトナム・ソ連友好協会副会長(50)、大学で教鞭(51)、気象局(のちに気象・水資源局)の局長(54)、社会党総書記(56-88)。救済省大臣(1955/ 9 /20-1959/ 5 /27)、国家科学・技術委員会に参加、ベトナム科学技術普及会会長就任(59)、国会常務委員会副委員長(国2-6:60-82)、国会副主席(国7:82)、祖国戦線主席団名誉委員。(ND.1997.11.16)

Pham Gia Khiem 1944 ハノイ

科学・技術・環境省大臣(1996/11-1997)、党中央委員(党8:96)、計画投資省次官(96)、国会代表(国10:97)、副首相(1997-2002/ 8 現在)。科学技術修士(97)

Pham Hung 1912/ 6 /11—1988/ 3 /10 ヴィンロンノチャウタイン

1930年入党。1928年-29年、青年運動、学生運動を行い、「南圻学生連合会」と「青年共産団」に参加。31年、フランス当局に逮捕・投獄される。45年8月革命後に出獄し、南部党委員会委員に選ばれる。46年、南部臨時党委員会書記、党中央正式委員(党2:51)、52年、南ベトナム中央局が設立された時点では同中央局常務委員、その後、同副書記兼南部東方分連区抗戦・行政委員会党書記兼委員長。首相府大臣(1955/ 9-1958/ 4)、副首相(1958/ 4-1971)、国会代表(国2,3,6:60,64,76)、党政治局員(56)、中央統一委員会委員長(56)、党政治局員兼書記局員(58)、副首相(58/ 4-)、財政・商業事務局局長(1963/ 1-1966/ 4)、国家物価委員会委員長(1965/ 4-1966/10)、南ベトナム中央局書記・南ベトナム解放武装勢力政治委員(67)。副首相

(1976-1987)、党政治局員(党 4 :76)、内務省大臣(1980/ 2 -1987/ 2)、党政治局員(党 5 :82)、首相(1987/ 6 -1988/ 3 /10)。(ND.1988.3.12)

Pham Khai

電力省大臣(1981/ 1 -1987/ 2)

Pham Minh Hac 1935 ハノイ

国会代表(国 7 :82)、教育省科学院院長・国会科学技術委員会委員長(82)、党中央候補委員(党 6 :86)、教育省大臣(1987/ 2 -1990/ 3)、党中央委員(党 7、8 :91、96)、教育・養成省次官(91、96)。

Pham Ngoc Thach 1909/ 5 / 7 -1968/11/ 7 ホーチミン

1945 年 3 月入党。フランスで医学を学んだ後、1935 年薬剤師としてサイゴンで開業、36 年には民主戦線擁護の運動に参加した。41 年末、党が指導する運動に参加することを決意。以来、党幹部の治療の他、ベトナム戦線の運動を積極的に宣伝した。45 年 3 月に入党後、青年先鋒隊を組織、指導し、党幹部としてサイゴン・チョロン地区における八月革命の勝利に貢献した。八月革命後、医療省大臣(1945/ 9 / 2 -1945/12/31)となり、南部における抗戦が始まると南部抗戦委員会とともに活動、46 年 11 月には首相府次官となった。その後、サイゴン・チョロン特別区抗戦・行政委員会常務委員、委員長(50/ 7 -53 半ば)、北ベトナムへ移動(53/ 4)、医療省次官(55 初)、医療省大臣(1959/ 5 -1968/11)、国家科学技術委員会所属の医学委員会委員長、党中央結核対策院院長を歴任。結核の専門家として名高い。その他、国会代表(国 2,3 :60-71)、ベトナム青年協会会長(56 年— 61 年)、ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪調査委員会委員長(66)なども歴任。妻はフランス人。(ND.1968.12.17. 一部、資料⑦参照。出身地、入党日など、一部資料①との差異あり)

Pham Quang Nghi 1949/ 9 / 2 - タインホア / イエンディン

1973 年 11 月 28 日入党。党中央委員(党 8 :96)、党中央思想文化委員会副委員長(96)、党中央委員(党 9 :01)、ハナム省党書記(01)、国会代表(国 11 :02)、哲学博士(02)、文化・通信省大臣(2002/ 8 現在)、文化通信省党幹事会書記

Pham Song

医療省大臣(1988/11-1992/ 9)、党中央委員(党 7 :91)

Pham Van Dong(To) 1906/ 3 / 1 -2000/ 4 /29 クアンガイ / モードウック

1940 年入党。公務員の家庭に生まれる。1925 年、ファン・チュウ・チン葬儀のため授業ボイコットの学生運動に参加。26 年、中国の広州に渡り、ホー・チ・ミンが組織した訓練クラスに参加し、ベトナム青年革命同志会に加入。27 年末、中国から帰国し、サイゴンで革命運動に

参加。29年初頭、南圻青年部に入り、その後、ベトナム青年革命同志会総部(本部)に入る。29年5月、香港に渡りベトナム青年革命同志会の会議に参加。同年7月、サイゴンで革命活動中にフランス当局に逮捕・投獄される。36年7月、フランスにおける人民戦線の勝利後に釈放され、ハノイに行き公開活動に参加。40年5月、ホー・チ・ミンに中国の昆明で会い、そこで入党。42年初頭、カオバン省に戻り、カオバン省、バクカン省、ランソン省で革命の根拠地建設に従事する。45年8月、タンチャオでの国民大会に参加し、そこで民族解放委員会委員に選ばれる。八月革命後、財政省大臣(1945/ 3 / 2-1946/ 3 / 1)、経済省次官(1946/11/ 3-1947)、党中央候補委員(47)、党中央正式委員(49)、中部南方への特派員(47-48)、副首相(1949/ 7 /25-1955/ 9 /20)、党政治局員(党2:51)、54年のインドシナに関するジュネーブ会議では政府代表団団長を務める。54年9月、副首相兼外務省大臣(1954/ 4-1955)(1955/ 9-1961/ 2)、党中央対外委員会委員長。首相(55年9月20日-1987年6月)。党政治局員(党3-5:60-86)、国防評議会副議長(60-81)、党中央委員会顧問(87-97)、97年12月の4中総で顧問職から引退。国会代表(国1-7:46-87)。(ND.2000.5.3)

Pham Van Tra 1935 バックニン

党中央正式委員(党7:91)、中將・第3軍区司令官(91)、国会代表(国9:92)、国会国防安寧委員(92)、党政治局員(党8:96)、国防省次官兼総参謀長(96)、国会代表(国10:97)、国防省大臣(1997-2002/ 8現在)、国防安寧委員。軍事大学卒・政治英雄。

Phan Anh 1912/ 3 / 1-1990/ 6 /28 ハティン/ドゥックト

フランス留学経験をもつ医師。太平洋戦争期にハノイの青年知識人グループの一員として活動。1945年チャン・チョン・キム内閣の青年相に任命され青年運動を指導するが、急速にベトミンに傾斜した。ただし、政治的には社会主義者である。国防省大臣(1946/ 3 / 2-1947)、工商業省大臣(1951/ 5-1955/ 9)、ベトナム法律家協会創立(55)、同協会の会長(55-90)、商業省大臣(1955/ 9-1958/ 4)、外国貿易省大臣(1958/ 4-1976)、ベトナム祖国戦線中央委員会委員(55-90)、ベトナム祖国戦線中央委員会主席団副主席(88)、国会副主席(81)、国会代表(国2-8:60-90)。弁護士。(一部、資料⑦参照。ND.1990.6.30)

Phan Hien 1918 ハソンビン

司法省大臣(1981-1992/ 5)、国会代表(国8:87)

Phan Ke Toai 1889-1973/ 6 /26 ハタイ/バーヴィ

1914年官職につく。もともと北部の地方長官であったが、チャン・チョン・キム内閣設立後、北部の欽差に任命された。ベトミンの勢力伸張を前に、日本敗戦以前から動揺し始め、八月革命期に北部の統治権をベトミンに委譲して一旦引退した。しかし、1947年に死亡したフィン・トゥック・カンの後任として内務省大臣(1947/11-1963/ 4 /30)に就任した。ベトナム祖国戦線主席団委員(55)、副首相(1955/9.20-1975)。(ND.1973.6.27. 資料⑦参照)

Phan My 1914-1981/10/ 6 ハティン / ドウックト

共産党員。水利・電力省次官(60-64?)、首相府大臣(1973/ 4-1981)、国会代表(国 5 :75)。
(ND.1981.10.7)

Phan Ngoc Tuong 1929/ 2 /12-1997/ 6 /18 クアンビン / ドンホイ

1948 年 3 月入党。45 年 8 月-48 年 6 月、クアンビン省ドンホイ火力発電所で救国青年団に参加。48 年 6 月-50 年 3 月、第 4 連区技術学校で学ぶ。同学校の党委員会委員、学校の支部委員。第 4 連区労働総同盟幹部(1951/ 5-1951/ 8)、第 5 連区労働総同盟幹部(1951/ 8-1953/ 7)、ビンディン省労働総同盟事務局長、同労働総同盟執行委員(1953/ 7-1955/ 5)、北部へ移動し(1955/ 5)、軽工業省で働く。建築省施工機械公司副社長、同社長、公司党副書記(1962/ 2-1969/12)、建設省建設進度管理局施工管理課副課長、同省建設進度管理局局長(1969/12-1974/ 3)、建設省次官(1976/ 3-1977/ 3)、その後、ソンダ水力発電所建設総公司総裁を兼任(1977/ 3-)、建設省大臣(1982/ 4-1988/ 3)、党中央候補委員(党 5 :82)、党中央正式委員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)、建設省大臣(1988/ 3-1989/10)、閣僚評議会(政府)組織・幹部工作担当大臣(1989/11-1991)、党中央委員(党 7 :91)、国会代表(国 9 :92)、党中央組織委員会副委員長、政府党幹事会委員、政府組織・幹部委員会委員長(1991-1996/11)。
(ND.1997.6.20)

Phan Thanh Liem 1933 ビンチティエン

党中央候補委員(党 5 :82)、第一工具機械製造工場長(83?)、党中央正式委員(党 6 :86)、機械・冶金省大臣(1987/ 2-1990/ 2)、国会代表(国 8 :87)

Phan Trong Tue 1917/ 7 / 7 - 1991/12/18 ハタイ / クオックオアイ

1934 年 8 月入党。ヴィエンチャン省(ラオス)において学生運動をする。35 年 2 月、フランス当局に逮捕される。40 年、ソントイ省臨時党書記、41 年、ハドン省党書記、その後、ハノイ市、ハドン省、ソントイ省、ハナム省からなる省連合党書記、41 年末、北圻党委員会委員となり平民運動担当者となる。43 年 3 月、フランス当局に逮捕され、コンダオへ。45 年 9 月、コンダオでの政権奪取に参加。45 年 10 月、ハウザン省での抗戦に参加、南部西方の省連合党常務委員となる。46 年 1 月、南部の第 9 軍区政治委員となり、48 年には南部党委員会委員となる。49 年にはサイゴン・チョロン特別区軍区党委員会書記を兼任、その後、同特別区党書記、南部東方軍区党委員会政治委員兼書記となる。南部西方軍連区常務委員となり、副政治委員となる(51)。南部停戦連合委員会におけるベトナム人民軍副団長(54/ 8)、中央停戦連合会におけるベトナム人民軍団長(55/11)、ベトナム人民軍監査委員会副委員長(57/ 3)。公安省次官、人民武装公安司令官兼政治委員(58)、防衛部隊党団委員兼党委書記・少将(58)、国会代表(国 2 - 7 :60-87)、党中央正式委員(党 3 :60)、交通・郵政省大臣(1960-1964)、国会代表(国 3 - 6 :64,71,75,76)、交通・運輸省大臣(1964-1974/ 3)、中央軍党委員会委員(65-72)、559 師団司令部司令官兼政治委員(65)、党中央交通運輸委員会書記、第 4 軍区交通運輸保障司令部司令

官(68)、副首相(1974/ 3-1976)兼南ベトナム解放支援評議会常務(75)、交通・運輸省大臣(1976-1980/ 2)兼党中央交通運輸委員会書記、党中央正式委員(党4:76)、国会代表(国7:81)、越カンボジア友好協会会長(81)。(ND.1991.12.20)

Phan Van Khai 1933/12/25- ホーチミン/クチ

1959年入党。ザディン省の児童・青年組織で活動(47-52年)、ザディン省リエンヴィット戦線事務局で活動(52-54)、54年、北部へ移動。54年10月-60年、租税削減、農地改革に従事。60年5月-65年6月、モスクワの国民経済大学で学ぶ。65年6月-71年、国家計画委員会の総合課副課長、課長。72年-75年、南ベトナム経済研究の幹部。76年-78年、ホーチミン市計画委員会副委員長。79年-80年、ホーチミン市党委員会委員、常務委員、計画委員会委員長、人民委員会副委員長。81-84年、ホーチミン市党副書記、人民委員会常任副委員長。党中央候補委員(党5:82)、85-89年3月、ホーチミン市党副書記兼人民委員会委員長、党中央正式委員(党6:86)、国会代表(国8:87)、ホーチミン市党副書記兼人民委員会委員長(87)、国家計画委員会委員長(1989/ 3-1991/ 8)、党政治局員(党7:91)、第一副首相(1991/ 8-1992)、国会代表(国9:92)、副首相(1992-1997)、首相(1997/ 9-2002/ 8現在)。国民経済大学卒。(資料①参照)

Phan Van Tiem 1933 ゲティン

党中央候補委員(党6:86)、国家物価委員会委員長(1987/ 2?-1992)、政府の若干の工作担当大臣(1992-1996/11)、党中央委員(党7:91)

Phan Xuan Dot 1934 ベンチェ

林業省大臣(1981/ 1-1992)、国会代表(国6:81)、党中央候補委員(党5、6:82、86)

Quach Le Thanh 1947/ 2 /28- タインホア/カムトウイ

1967年10月1日入党。党中央委員(党9:01)、党中央内政委員会副委員長、党中央内政機関グループ党委員会書記、第8期第6回(2次)中央委員会決議の指導委員会委員(02/ 4)、国家監査委員会総監(2002/ 8現在)。計画経済大学卒。

Song Hao 1917 ハナムニン

党中央正式委員(党3:60)、国会代表(国6:76)、党書記局員(党4:76)、傷病兵・社会省大臣(1982/ 4-1987/ 2)、党中央正式委員(党5:82)、前党監査委員長・国防次官・中將・軍政治局主任(?)

Ta Hoang Co

ベトナム国家銀行総裁代理(1963/ 1-1964)、ベトナム国家銀行総裁((1964-75)

Ta Huu Thanh 1942/12/26- フート / ヴィエットチ

1966 年 1 月 29 日入党。党中央委員(党 7 :91)、ホアンリエンソン省党常務委員・人民委員会委員長(91)、党中央委員(党 8 :96)、国家監査委員会総監(1995/10-2002/ 8)、党中央委員(党 9 :01)、国家監査委員会党幹事会書記(02)。銀行大学卒、政治上級。

Ta Quang Buu 1910/ 7 /23-1986/ 8 /21 ゲアン / ナムダン

1947 年 7 月入党。教育者の家庭に生まれる。フエのクオックホックに学び、ボーイスカウト運動に参加。フランス、イギリス留学から帰国後、フエの電力・水力会社に就職。ボーイスカウト運動の指導者となった。1945 年、チャン・チョン・キム内閣の青年省次官に任命されたが、急速にベトミンに傾斜。外務省参議長(45/ 9 -46/ 1)、国会代表(国 1 - 6 :46 - 82)、国防省次官(1946/11/ 3 -1947/ 8)、国防省大臣(1947・ 8 -1948/ 7)、61 年まで国防省次官クラスの任務につく。この間、ダラト、フォンテーヌブロー両会談を初め、1954 年ジュネーブ会談にも参加した。65 年まで、ハノイ百科大学学長、国家科学委員会副委員長を歴任。大学・専門中学・職業学校省大臣(1965-1976)。ベトナムの世界平和防衛委員会副委員長、ベトナム・ソ連友好協会副会長も務めた。(ND.1986.8.23. 一部、資料⑦参照)

Ta Quang Ngoc

党中央委員(党 8 :96)、水産省次官(96)、水産省大臣(1996/11-2002/ 8 現在)

Thai Phung Ne 1936 フーイエン

党中央委員(党 7 :91)、エネルギー省大臣(1993/10-1995/10)、国会代表(国 10 :97)、党中央委員(党 8 :96)、ベトナム電力総公司管理委員主席・国会経済財政委員会委員(97)。Thuy cong-Thuy dien 修士(97)。

To Duy

国会代表(国 5 :75)、国家物価委員会委員長(1975-1981/ 2)、国会代表(国 6 :76)

To Huu (Nguyen Kim Thanh, Lanh) 1920/10/ 4 -2002/12/ 9 ツウアティエン・フエ / クアンディエン

1937 年入党。1936 年に共産青年団に参加。38 年、フエ市党委員会委員に選出され、宣伝工作と青年運動を担当。39 年 4 月フランス当局に逮捕・投獄されるが、42 年 3 月に脱獄し、タインホア省で基礎組織の建設に参加。43 年-45 年、タインホア省党書記を務め、クアンチュン戦区指導委員会にも参加。45 年 3 月以降、党中央よりゲアン省、ハティン省、クアンビン省、トゥアティエン・フエ省に派遣され、各省に蜂起委員会を組織し、中部南方において革命活動をしている者との連絡をとった。また、中部臨時党委員会を組織し、トゥアティエン・フエ蜂起委員会委員長となった。八月革命の時には、中部党委員会副書記。46 年、党中央に戻り、文化工作、青年工作の責任者となり、同年末までにタインホア省党書記となった。47 年-50

年、党中央における宣伝工作と文芸工作の責任者。51年、党中央候補委員(党2:51)、54年、党中央宣伝・訓練委員会副委員長、文学・芸術協会副会長となった。55年、党中央正式委員(55年)、58年、党中央書記局員となり、党中央宣伝・訓練委員会副委員長を務めた後、党中央宣伝教育委員会副委員長となった。60年、国会代表(国2:60)、党書記局員(党3:60)、文教事務局局長(1960-1963/1)、68年、党中央宣伝教育委員会委員長および党中央科学・教育委員会委員長となる。72年には、党中央統一委員会委員長を兼任した。76年、党政治局候補委員兼書記局員(党4:76)、引き続き党中央宣伝教育委員会委員長および党中央科学・教育委員会委員長となり、グエンアイコック上級党学校校長に就任した。80年には、政治局正式局員となり、副首相(1980/2-1986/6)に就任した。81年には、国会代表(国7:81)、副首相、国防評議会委員に就任。82年3月、党政治局員(党5:82)に再選された。86年6月から思想・文化工作の責任者となる。91年10月からは、政治局より、思想、文化、教育、科学に関する若干の問題について研究・総括する任務を付与された。革命的詩人としても有名。(ND2002.12.12.)

Tran Cong Tuong (Le Tam) 1915/ 8 / 4 -1990/ 2 /12 ティエンザン / ゴーコン

1946年6月入党。八月革命以前は、知識人として南部でインドシナ共産党を擁護する愛国的な運動に参加。1945年4月、サイゴン・チョロンにおける救国知識人・公務員協会会長。蜂起の際にはサイゴンでの政権奪取に参加、その後、南部司法長官、南部裁判所検事総長となり、ミート、ベンチェ、チャヴィン、ソクチャン、バックリュウ、カマウ、カントー、ラクザー、ロンスエンなどに軍事裁判所を設立。国会代表(国1-5,7:46-76,82-87)、司法省次官(1946/11/3-1955)、58年-80年の間、政府の法制委員会委員長、国会の統一委員会委員(国3)、国会の法律草案委員会委員(国4)、国会の法律委員会委員(国7)、最高人民裁判所所長代理、最高人民検察院副院長、ベトナム法律家協会総書記などを歴任。46年-72年には、司法省、最高人民裁判所、ベトナム法律家協会、政府の法制委員会などの党団書記やベトナム法律家協会書記長も務めた。この間、54年のインドシナに関するジュネーブ会議、61-62年のラオスに関するジュネーブ会議、68年-72年のパリ和平会談などにも参加した。(ND.1990.2.17)

Tran Dai Nghia (Pham Quang Le) 1913/ 9 /13-1997/ 8 /12 ヴィンロン / タムビン

1949年5月入党。1935年9月フランスに留学。奨学金を貰い、フランスの飛行機研究院やソルボンヌ大学で橋梁土木技術、電気などを学ぶ。国会代表(国2,3:60,64)、ベトナム人民軍後方総局副局長、技術総局副局長、国家基本建設委員会委員長(1964-1973/6)、国家科学・技術委員会委員長(1965/10-1977/2)、国家科学院担当大臣、商工業省次官、工業省次官、ベトナム労働総同盟執行委員などを歴任。(ND.1997.8.12&1997・8・31)

Tran Dang Khoa 1907/ 4 / 5 -1989/ 2 /18 トウアティエン・フエ / フエ

八月革命以前より公共事業関連の技師としてフエ、ニャチャンの公共事業局で働き、その後、中部南方の公共事業監督となる。1945年、ベトナム民主党に入党。1945年8月-10月、カ

インホア省臨時革命人民委員会委員兼中部南方の公共事業監督。同年 10 月 -翌 46 年 3 月、中部公共事業監督。国会代表(国 1 - 7 :46-87)、交通・公共事業省大臣(1946/ 3 / 2 -1955/ 9 ?)、水利・建築省大臣(1955/ 9 -1958/ 4)、水利省大臣(1958/ 4 -1960/ 7)、その他、ベトナム祖国戦線中央委員会主席団委員(61/ 4 -88/11)、ベトナム民主党副書記長(58/ 6 -88)、国会常務委員会副委員長(国 2 - 6 :60/ 6 -81/ 7)、国会の経済・計画・予算委員会委員。(ND.1989.2.20)

Tran Danh Tuyen (Nguyen Van Luan) 1911/ 8 /20-1997/ 5 / 8 バクザン / ヴィエツトイエン

1937 年 4 月入党。バックゲ学校を卒業後、ヴィン、ゲアンの汽車工場の労働者となる。1935 年より革命に参加。40 年、フランス当局に逮捕・投獄される。45 年 3 月、クアンイエン刑務所より逃亡し、クアンイエン、ホンガイ、モンカイ、スアンマイで革命活動を行う。その後、ハノイ市党書記となる。45 年 10 月、北圻党委員会委員に選ばれ、党中央労働運動小委員会書記となる。46 年 12 月、北圻党委事務局に戻り監査工作に従事、47 年 7 月、第 10 区党委副書記となる。48 年初頭、第 1 連区党常務委員、49 年初頭、労働総連盟労働運動書記、54 年 6 月、ナムディン省党書記、その後、ハノイ市党書記となる。国会代表(国 1 - 6 :46-82)、党中央候補委員(党 3 :60)、61 年、ベトナム労働総連合副会長兼総書記に就任、67 年、工業事務局局長(1967/ 2 -1969/12)、69 年、資材省大臣(1969/12-1976)、76 年、党中央対外委員会副委員長。1960 年から越・日友好協会会長。(ND.1997.5.13)

Tran Dinh Hoan 1939 フンイエン

労働・傷病兵・社会省大臣(1989/ 4 -1997/12)、党中央委員(党 7、8 :91、96)、国会代表(国 10 :97)。助教授・経済労働修士、道路・橋梁技師(97)

Tran Duc Luong 1937 ギアビン

国会代表(国 7 :81)、地質総局長・国会科学技術委員(81)、党中央候補委員(党 5 :82)、党中央正式委員(党 6 :86)、副首相(1987/ 2 -1997)、党中央委員(党 7 :91)、党政治局員(党 8 :96)、国会代表(国 10 :97)、技師・国家主席・国防会議主席(97)、98 年政治局会合で常務。

Tran Duong

ベトナム国家銀行総裁(1977/ 2 -1981/ 2)

Tran Hong Quan 1937 キエンザン(ソクチャン)

党中央候補委員(党 6 :86)、国家代表(国 8 :87)、機械科学修士・CapI 教授(87)、大学・専門中学・職業学校省大臣(1987/ 2 -1990/ 3)、教育・養成省大臣(1990/ 3 -1997)、党中央委員(党 7 :91)、党中央委員(党 8 :96)、国会代表(国 10 :97)。教授・修士(機械化学)(87)、(97)

Tran Huu Du 1921/ 4 / 6 -2000/ 4 / 8 ハノイ(フンイエン/ティエンルー)

党中央候補委員(党4:76)、軽工業省大臣(1977/ 2-1982/ 4)、(党)中央競争委員会副委員長(?)、国会代表(国7:81)。(ND.2000.4.12)

Tran Huu Duc 1910-1993/ 8 /21 クアンチ(ビンチティエン)

軍隊供給総局副主任・兵站総局主任・中央軍事委員(50)、国家計画委員副委員長兼中央統計局局長・中央農村工作委員長・農林省次官(55-60)、国会代表(国2:60)、農場省大臣(1960-1963/ 1)、党中央正式委員(党3:60)、農業事務局局長(1963/ 1-1965/ 4)、国会代表(国3-6:64,71,75,76)、首相府大臣(1965/ 4-1968)、Tri Thien 区委書記(73.2)、副首相(1974/ 3-1976)、最高人民監査院長(76?)、越ラオス友好協会?、党中央正式委員(党4:76)、国会代表(国7:81)、国会法律委員会委員。(ND.1993.8.24)

Tran Huy Lieu 1901-1969/ 7 /28 ナムディン

1936年入党。17歳の時から愛国的な詩を作り始め、やがてジャーナリストになる。1923年、サイゴンへ。28年、ベトナム国民党に入党、29年には南圻における党代表となる。29年8月、フランス当局に逮捕され、コンダオへ。獄中で、共産主義に目覚める。35年、釈放されて北部へ戻り、36年に共産党に入党。39年、再びフランス当局に逮捕される。通信・宣伝省大臣(1945年9月2日ー1946年12月31日)、ベトミン総部(本部)書記、救国文化協会会長、軍事委員会の政治局局長、国会常務委員会委員(46)、宣伝・煽動省大臣(1946年1月1日-1955年9月?)、ベトナム文学協会執行委員(48-50)、文地史研究委員会委員長(53)、憲法修正委員会総書記(57)。ハノイ歴史学界の重鎮として名高かった。(ND.1969.7.29&30. 一部、資料⑦参照)

Tran Kien(Nguyen Tuan Tai) 1920 ギアビン

国会代表(国4-6:71,75,76)、党中央正式委員(党4:76)、ギアビン省党書記、党中央統制委員長(?)、ザライーコンツウム省党書記(76?)、林業省大臣(1979/ 2-1981/ 1)、党書記局員(党5:82)

Tran Lum

党中央候補委員(党6:86)、党中央委員(党7:91)、機械・冶金省大臣(1990/ 2-1990/ 3)、重工業省大臣(1990/ 3-1995/10)

Tran Nam Trung(本名、Tran Khai, 通称、Tran Luong, Hai Hau, Nam Nga) 1912 クアンガイ/モードウック

1930年入党。少年期より革命に参加。クアンガイ省党書記、第5連区党書記、ベトナム人民軍政治総局副局長などを歴任。その間、党中央候補委員(55)、党中央正式委員(党3,4:60,76)、政府監査委員会委員長(1976-1982/ 4)。上將。(ND.2000.2.1)

Tran Phuong 1927 ハイフン

党中央候補委員(党 4 :76)、国家計画委員会副委員長(1980/ 2 -1981/ 1)、国内通商省大臣(1981/ 1 -1982/ 4)、党中央正式委員(党 5 :82)、副首相(1982/ 4 -1986/ 1)

Tran Quang Huy(本名、Vu Duc Hue) 1922/ 2 / 4 - 1995/ 6 /27 タインホア / ドンソン

1938 年 5 月入党。1936 年、革命運動に参加。北圻民主青年団書記となる。39 年、党支部書記、ハノイ市党委員会青年運動工作の責任者となる。40 年-41 年、ハイフォン市党書記、B 区党委員会委員、40 年 5 月にはハイフォン製糸工場労働者の大規模なストライキを直接指導しフランス当局に逮捕・投獄される。44 年、タインホア市の教員、学生、商人の中で、革命活動を行う。45 年、総蜂起が成功すると、ハノイ市革命人民委員会委員長、ハノイ市党書記兼ハノイ市ベトミン支部支部長および全国青年連絡委員会委員長となる(45)。46 年-48 年、北圻党委員会委員、第 12 区党副書記、第 1 連区党常務委員などを歴任。49 年-50 年、党中央総書記事務局局長、51 年-54 年、党中央機関紙『ニャンザン』責任者、55 年-60 年、『ホク・タップ』誌編集長兼党中央宣伝・教育委員会副委員長、国家科学委員会副委員長、党中央候補委員(党 3 :60)、61 年-67 年、党中央宣伝・教育委員会常務副委員長、文教事務局局長(1965/10-1971) 党中央科学委員会常務副委員長・中央局宣伝教育委員会委員長(68-74)、文教担当大臣(1971-1980/ 2)、国会代表(国 4 - 6 :71,75,76)、党中央正式委員(党 4 :76)、政府法制委員会委員長(閣僚)(80/ 2 -81)、国会法律委員会委員長(81/ 7)(ND.1995.7.1)

Tran Quoc Hoan(本名、Nguyen Trong Canh) 1916/ 1 /23 - 1986/ 9 / 3 ゲアン / ナムダン

1934 年 3 月入党。1930 年、インドシナ共産党の反帝学生組織に参加。その後、ラオスで炭鉱夫となり、そこで引き続き革命運動に従事。34 年末、フランス当局に逮捕・投獄される。36 年ハノイに赴き民主戦線運動に参加。37 年-39 年、党の指示により秘密活動に入り、ハノイ市党常務委員、同市党副書記、党書記を歴任。40 年 5 月、ハノイを離れ、『解放旗』紙印刷機関での工作に従事、バクザン省、バクニン省の革命運動を担当。41 年初頭、フランス当局に再び逮捕・投獄される。45 年 3 月、出獄すると、党中央より北圻党委員会党書記に選ばれる。46 年 12 月、ハノイにおける党中央の派遣員となり、47 年には、第 2 連区党書記、48 年 3 月には第 10 連区党書記、49 年にはハノイ特別区党書記となった。党中央候補委員(党 2 :51)、52 年から公安庁を担当。54 年にはハノイ市党書記。党中央正式委員(55)、公安省大臣(1955/ 9 /20-1975)、国会代表(国 2 :60)、党政治局員候補(党 3 :60)、61 年、党中央軍事委員会に参加。国会代表(国 3 - 7 :64,71,75,76,81)、内政事務局局長(1960-1965/10)、党政治局正式委員(72)、内務省大臣(1975-1980/ 2)、党政治局員(党 4 :76)、党書記局員となり民衆運動工作・民族工作担当(80 年末)、党中央正式委員(党 5 :82 降格?)、党中央民衆運動委員会委員長(82)。(ND.1986.9.5)

Tran Quynh 1920 クアンチ

国会代表(国 4- 6 :71,75,76)、党中央正式委員(党 4 :76)、国家科学・技術委員会(1977/ 2-1980/ 2)、国家計画委員会副委員長(閣僚)(1980/ 2-1981/ 1)、副首相(1981/ 1-1987/ 2)、党中央正式委員(党 5 :82)、副首相兼コメコンベトナム常務代表(87.1 確認)

Tran Sam 1918 ビンチティエン

国会代表(国 3 :64)、資材省大臣(1976-1982/ 4)、党中央正式委員(党 4 :76)

Tran Thi Thanh Thanh 1940 ダナン市

党中央委員(党 7 :91)、クアンナム・ダナン省党副書記・ベトナム婦人連合主席(91)、国会代表(国 9 :92)、児童保護・育成委員会委員長(1992-1997)、党中央委員(党 8 :96)、国会代表(国 10:97)、越・キューバ友好協会会長(97)、児童保護・育成工作担当大臣(1997-2002)。教育学修士(92)。

Tran Thi Trung Chien 1946/ 1 /16- ベンチェ / チャウタイン

党中央委員(党 8 :96)、医療省次官(96)、人口・家族計画工作担当大臣(1997-2002/ 8)、党中央委員(党 9 :01)、国会代表(国 11:02)、医療省大臣(2002/ 8 現在)。医学博士・医師(02)。

Tran Van Hien

党中央正式委員(党 4 :76)、国内通商省大臣(1977/11-1981/ 1)

Tran Van Phac 1926 ハイフン

党中央正式委員(党 5 :82)、少将・軍政治局副局長(82?)、軍政治総局副局長(86.4?)、文化・通信省大臣(1986/ 6 -1987/ 2)、党中央正式委員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)、文化省大臣(1987/ 2-1990/ 3)

Tran Xuan Gia 1939 ツウアティエン・フエ

党中央委員(党 8 :96)、計画・投資省次官(96)、計画・投資省大臣(1996/11-2002/ 8)、国会代表(国 10:97)、助教授・経済修士(97)

Trinh Van Binh 1910/ 1 /14-1985/11/10 ハタイ / タインオアイ

財政省次官(閣僚)(1946/11/ 3-1955)。(ND.1985.11.11)

Truong Chinh(Dang Xuan Khu) 1907/ 2 / 9-1988/ 9 /30 ナムディン / スアントウイ

1930 年入党。1925 年、ファン・ボー・チャウの恩赦を求める運動に参加。26 年、ナムディンでファン・チュウ・チン追悼のための授業ボイコットを指導。退学させられるがハノイに赴き、商業高等学校で 29 年末まで学ぶ。27 年、ベトナム青年革命同志会に加入。29 年、北圻におけ

るインドシナ共産党設立運動に参加。30 年、インドシナ共産党の中央宣伝・煽動委員会委員、同年末、フランス当局に逮捕・投獄される。36 年末釈放され、39 年までハノイで活動、北圻党委員会委員、北圻民主戦線委員会内の党代表となる。40 年、北圻党委員会機関誌『解放』編集長、7 中総で党中央委員に選出される。41 年、8 中総で党書記長に選出され、以後、宣伝・訓練委員会委員長兼党中央機関紙『解放旗』・同機関誌『共産雑誌』編集長、党中央労働運動委員会委員長などを歴任。45 年、全国総蜂起委員会委員長。第 2 回党大会で党書記長に選出されるが、土地改革の行き過ぎを批判され職を解かれる(51/ 2 -56/10)。党政治局員兼書記局員(党 2 :51)、副首相(1958/ 4 -1959/ 5 /27)、国家科学委員会委員長(1958/ 4 -1960)、国会代表(2 - 6、60,64,71,75,76)、第 3 回党大会で党政治局員、党の国会工作および思想工作責任者となる(党 3 :60)。第 4 回党大会で党政治局員、党史研究、理論研究の責任者となる(党中央党史研究委員会委員長、党中央理論委員会委員長)(党 4 :76)。76 年には国会の憲法起草委員会委員長に就任。国会代表(国 2 - 7 :60-87)、国家常務委員会委員長(60-76)、第 5 回党大会で党政治局員(党 5 :82)、国家評議会議長(76-86)、党書記長(86/ 7 -86/12)、第 6 回党大会で党中央委員会顧問となり、党の綱領・経済戦略起草委員会副委員長兼綱領起草小委員会委員長となる(党 6 :86)。(ND.1988.10.2)

Truong Dinh Tri

親中国国民党系のベトナム革命同盟会党员。社会省大臣(1946/ 3 / 2 -1946/11/ 2)、医療省大臣(1946/ 1 / 1 -1946/ 3 / 1)、社会省大臣兼医療・救済・労働省大臣(1946/ 3 / 2 -1946/11/ 2)。47 年フランス軍支配下のハノイで北ベトナム行政委員会委員長となったが、同年 10 月ベトミンによって暗殺された。(一部、資料⑦参照)

Truong Dinh Tuyen 1942/ 1 / 9 - ゲアン / ジエンチャウ

党中央委員(党 8 :96)、国会代表(国 10:97)、商業省大臣(1997-2000/ 1 /28) (2002/ 8 現在)。機械製造技師(97)。

Ung Van Khiem (Nhuong, Huan) 1910/ 2 /13-1991/ 3 /20 アンザン / チョーモイ

1930 年入党。1927 年、ベトナム青年革命同志会に入会。31 年-36 年、フランス当局に逮捕・投獄される。36 年-39 年、公開活動に従事、南部西方の各省で平民の戦線を組織に、各省連合党委員会委員となりロンズエン省を担当。39 年-41 年、フランス当局により再び逮捕される。44 年-45 年、南圻党委員会設立準備のために各グループ統一に尽力、と同時にベトナム戦線の再組織、統一のために活動。45 年、南圻党委員会常務委員、サイゴンでの政権奪取を準備。45 年 8 月-46 年末、南部党委員会書記、その後、政権を担当する南部党委員会常務委員となる。国会代表(国 1 - 3 :46-71)、党中央正式委員(党 2,3:51,60)、南ベトナム中央局委員、バクリウ省党書記兼抗戦・行政委員会委員長(51)。第 1 次インドシナ戦争後、外務省次官・党中央対外委員会委員長(55)、党中央委員(党 3 :60)、外務省大臣(1961/ 2 -1963/ 4 /30)、内務省大臣(1963/ 4 /30-1971)。(ND.1991.3.22)

Uong Chu Luu 1955/ 7 /20 ハティン / ギスアン

1983年12月3日入党。党中央委員(党9:01)、国会代表(11:02)、ベトナム労働総連合執行委員、司法省次官(02・4)、司法省大臣(2002/ 8 現在)。法学博士(02)。

Van Tien Dung (Le Hoai) 1917/ 5 / 2 -2002/ 3 /17 ハノイ / トウーリエム

1937年11月に入党(正式には、1938年3月)。35年-38年、ハノイの紡績工場労働者。36年、党の指導によるハノイの労働者の公開闘争運動に参加。36年12月、ハノイの紡績工場労働者による最初のストライキを組織する。38年末、ハノイの紡績工業部門の党支部書記。39年、ハノイ市党委員会委員。同年、フランス当局に逮捕・投獄される。41年9月、刑務所間を移送中に逃亡、ハドン省で革命の基礎組織を築く。43年3月、ハドン省党幹事会書記、同年6月、北圻党委員会に参加。44年1月8日、バクニン省党書記。45年4月、北圻革命軍事委員会(インドシナ北部軍事司令部)常務委員となり、クアンチュン戦区(ホアビン省、ニンビン省、タインホア省の3省からなる)の組織を担当、同時にクアンチュン戦区の党委員会書記を兼任し、八月革命の際には上記各省の政権奪取をする。八月革命後は、第2戦区(北部の西北・西南の8省からなる)設立の任務を与えられ、同戦区の政治委員となり、党中央軍事委員会委員となる。46年12月、ベトナム人民軍政治局(現在の政治総局)局長となり、党中央軍事委員会副書記となる。48年、少将。49年10月-50年、第3連区政治委員、その後、同军区司令官、第3区党常務委員。党中央候補委員(党2:51)、51年、北部平野部で活動する第320師団政治委員兼司令官となる。53年11月-78年5月、ベトナム人民軍総参謀長。党中央正式委員(55)、59年8月、上将。党政治局候補委員(党3:60)、72年から党政治局正式委員、75年までに多くの戦功をあげたが、その間の74年4月には大将となる。78年5月から、党中央軍事委員会副書記。国会代表(国2-6:60,64,71,75,76)、党政治局正式委員(党4:76)、国防省大臣(1980/ 2-1987/ 2)、国防会議メンバー(81)、党政治局員(党5:82)、党中央軍事委員会書記、党中央正式委員(党6:86、降格?)となり、軍隊の戦争経験の総括工作および軍隊の歴史編纂工作进行を指導する責任者となる。国会代表(国2-7:60-86)。(ND.2002.3.20)

Vinh Thuy 1913-?

グエン朝第13代皇帝(在位1926-45年)。皇太子に即位した1922年からフランスに留学した。25年末、父カイ・ディン帝の死去に際しても、一時帰国して即位式(26年1月)に臨んだのみで、その後もフランス滞在を1932年まで続けた。したがって、フランス語に巧みで、その生活スタイルにもフランスの影響を強く受けていた。皇后のナム・フォンは、南部のカトリック大富豪の娘で、やはりフランスに長年留学していた。国会代表(国1:46)、政府最高顧問(1946/ 3 / 2-1946/11/ 3)。(バオダイ帝)。(資料⑦参照)

Vo Chi Cong (Vo Toan) 1913 クアンナム・ダナン

党中央候補委員(党3:60)、党政治局員(党4:76)、農業省大臣(1977/ 7 -1979)、海産省大臣(1976-1977/ 2 ?)、副首相(1976-1981,1982/ 4 -1986/ 6)、第一副首相(86年12月?)、国会代表

(国 7、8 :81,87)、党書記局員(党 5 :82)、党政治局員(党 6 :86)、国家評議会主席・国防会議主席(87-91)、政治局顧問(党 8 :96)、97 年 4 中総で引退。

Vo Dong Giang 1923-1998/ 2 / 1 フーイエン / トウイアン

1946 年 3 月入党。1945 年 3 月-47 年 6 月、ザライ省でベトミンの活動、その間、ザライ省ベトミン執行委員、同省行政委員会副委員長。47 年 7 月-49 年、ザライ省臨時党委員会委員、同臨時党書記。65 年 5 月-75 年 5 月、中央統一委員会局長、CP72 幹事会委員、タンソンニャットにおける 4 者または 2 者の軍事連合委員会における南ベトナム解放軍副団長。75 年 6 月-82 年、外務大臣秘書、外務次官(77)、在カンボジア大使(79)。83 年 2 月-86 年、外務省特務(biet phai)大臣(1983/ 3 -1986)、81 年 7 -87 年 5 月、ベトナムのユネスコ国家委員会委員長、対外経済委員会(1987-1988/ 3)、89 年-93 年、協力と投資に関する国家委員会副委員長(閣僚)。(ND.1998.2.4)

Vo Hong Phuc 1945/10/19- ハティン / ドウックト

党中央委員(党 8、9 :96,01)、計画・投資省次官(96,01)、国会代表(国 11:02)、計画・投資省次官(02/ 4)、計画・投資省大臣(2002/ 8 現在)

Vo Nguyen Giap 1911 クアンビン(ビンチティエン)

内務省大臣(1945/ 9 / 2-1946/ 3 / 1)、抗戦委員会委員長(1946/ 3 / 2-?)、国防省大臣(1946/11/ 3 -1947、1948/ 7 -1980/ 2)、党政治局員(党 2 -5,51,60,76,82)、国会代表(国 2 - 6 : 60,64,71,75,76)、副首相(1955/ 9 /20-1991/ 8)、国家科学委員会(1960-1963/ 1)、党中央正式委員(党 6,7:86,91 降格?)

Vo Thuc Dong 1915 ゲティン

党中央正式委員(党 3 :60)、国会代表(国 4 :71)、中央農業委員会委員長代理(1974/ 4 -1974/11)、中央農業委員会委員長(1974/11-1976)、農業省大臣(1976-1977/ 7)、党中央正式委員(党 4 :76)

Vo Van Kiet 1922/11/23- ヴィンロン / ヴンリエム

1939 年入党。ラックザー省常務委・副書記(45)・バックリウ省党委副書記→書記(50)、南部処理委員・ハウザン省党副書記・サイゴン ザディン地区党委員(55)、党中央候補委員(党 3 : 60)、党中央正式委員(党 4 :76)、党政治局員(党 5 :82)、ホーチミン市党(副)書記、ホーチミン市人民委員会委員長、国家計画委員会委員長(1982/ 4 -1988/ 3)、副首相(1982/ 4 -1991/ 8)、党政治局員(党 6 :86)、国会代表(国 8 :87)、第一副首相(87)、首相代理(1988/ 3 /10-1988/ 6)、党政治局員(党 7 :91)、首相(1991/ 8 -1997/ 9)、党政治局員(党 8 :96)、97 年 4 中総で顧問に就任(資料①参照)

Vu Dai (Nguyen Thuc Kha) 1926/ 1 / 1 -1983/ 6 / 6 フンイエン / ミーヴァン

1945年3月入党。早くから革命に目覚め、ミーヴァン県のベトミン戦線に参加。1945年3月入党後、バクニン省党委員会委員、48年末から第1連区ベトミン戦線の党団工作に従事、その後、党中央青年運動委員会に戻る。56年、ベトナム労働青年団中央常務委員会委員兼ハノイ市労働青年団書記。59年-65年、ハノイ市党常務委員兼行政委員会副委員長。65年-83年の間に以下の各経済・計画機関での工作に従事。軽工業省計画局局长、南部解放まで、ホーチミン市に入り、同市の計画委員会委員長、同市党委員会委員、その後、同市党常務委員、人民委員会副委員長を歴任。79年10月まで、軽工業省次官、国会代表(国7:81)、国家計画委員会副委員長(閣僚)(1981/ 1 -1983)、党中央正式委員(党5:82)。(ND.1983.6.7)

Vu Dinh Hoe

国家教育省大臣(1945/ 9 / 2 -1946/ 3 / 1)、司法省大臣(1946/ 3 / 2 -1959/ 5 /27)

Vu Dinh Lieu

党中央正式委員(党4:76)、ハウザン省党書記(81)、党中央正式委員(党5:82)、副首相(1982/ 4 -1987/ 2)

Vu Dinh Tung 1895/ 6 /25-1973/ 4 /16 ナムディン / ヴーバン

八月革命以前より、愛国心豊かなカトリック教徒の知識人であった。八月革命後、革命工作と社会工作に積極的に参加し、北部医療庁長官に選出された。傷病兵省大臣(1955/ 9 /20-1959/ 5) ベトナム赤十字主席(58-73)、ベトナム祖国戦線中央委員会委員、ベトナムの世界平和防衛委員会副委員長、祖国と平和を愛するカトリック教徒全国連絡委員会委員(70)、カトリック教徒。(ND.1973/ 4 /18)

Vu Hong Khanh

ベトナム国民党党首。1946年3月の仏越暫定協定にホー・チ・ミンとともに署名したが、その後、中国に亡命した。抗戦委員会副委員長(1946/ 3 / 2 -1947?)。49年にバオ・ダイ政権が誕生すると、それに参加した。(主に、資料⑦参照)

Vu Khoan 1937/10/ 7 ハタイ / フースエン

1961年12月19日入党。党中央委員(党7:91)、外務省次官(91)、党中央委員(党8:96)、外務省次官(96)、党書記局員(党9:01)、商業省大臣(2000/ 1 /28-2002/ 8)、国会代表(国11:02)、副首相(2002/ 8現在)。大学卒。

Vu Lap (Truong Van Quyen, Nong Van Phach) 1924/ 7 /25-1987/ 7 /18 カオバン / ホアアン

1945年2月入党。1940年1月、革命に目覚め地方の愛友会に参加、40年3月、外国留学に選

抜された。44 年末に帰国し、他の同志とベトナム解放軍宣伝隊を創設、分隊の政治委員、小隊の政治委員を歴任。45 年 2 月、ベトナム解放軍宣伝隊支部で入党、同年初頭には中隊長となり、タイグエン省軍事委員となる。45 年末 - 46 年初頭、支隊長兼ベトナム軍事・政治学校教員。46 年-47 年、国防省の護衛連隊連隊長、48 年、308 連隊副連隊長、その後、ソンロ連隊連隊長、ソンラ連隊連隊長、同連隊党委員会書記。53 年、316 師団参謀長、同師団党委員会委員。55 年 2 月、タイバック区副参謀長、同区幹事会委員、55 年 11 月、タイバック軍区参謀長、同軍区党委員会委員、58 年 8 月、大佐、64 年 3 月、タイバック軍区副司令官兼参謀長、その後、タイバック軍区司令官、同軍区党委員会常務委員。70 年 4 月、ラオスにおけるベトナム志願軍司令官、その後、959 師団司令官、同師団党副書記、31 戦線司令官、同戦線党副書記を歴任。74 年 6 月、タイバック軍区司令官、同軍区党副書記、タイバック軍区とベトバック軍区が統一され第 1 軍区となった際、第 1 軍区副司令官、同軍区党委員会常務委員。国会代表(国 6 : 76)、党中央正式委員(党 4 : 76)、党中央民族委員会委員長、政府民族委員会委員長(1977/ 2 - 1978/ 6)。78 年 6 月、第 2 軍区司令官兼政治委員、同軍区党書記。80 年 1 月、中將。国会代表(国 7 : 81)、中將・第 2 軍区司令官・民族評議会委員(81)、84 年 12 月、上將。党中央正式委員(党 5 : 82)、党中央正式委員(党 6 : 86)、国会代表(国 8 : 87)、上將・第 2 軍区司令官・党中央軍事委員会委員・中央民族委員会委員長(87)、タイ(Tay)族(ND.1987.7.23)

Vu Ngoc Hai 1931 ビンチティエン

党中央候補委員(党 5 : 82)、党中央正式委員(党 6 : 86)、エネルギー省大臣(1987/ 2 -1992/ 9)、国会代表(国 8 : 82)

Vu Trong Khanh 1912-1996/ 1 /23 ハタイ / タインオアイ

1945 年以前より、革命活動に参加。司法省大臣(1945/ 9 / 2 -1946/ 3 / 1)、ハイフォン市行政委員会副委員長、同市の法律家協会会長やベトナム祖国戦線委員会副委員長などを歴任(ND.1996.1.25)

Vu Tuan 1922/ 5 /22-1993/ 8 /29 ハイフン / カムビン

1940 年入党。1939 年より反帝国主義青年組織で活動。1948 年-49 年、ヴィンイエン省党書記、第 10 区党委委員兼同区党組織委員会委員長、フート省党書記。50 年-51 年、ヴィエツトバック連区党委委員(教育・訓練担当)、党書記長事務局担当。1952 年、『ニャンザン』紙編集長。65 年-67 年、党中央事務局長、『ホクタップ』誌編集長。69 年、国内通商省次官、その後、軽工業省次官兼同省党団書記。軽工業省大臣(1976-1977/ 2)、党中央正式委員(党 4 : 76)、首相府大臣(1977/ 2 -1981/ 1)、食品工業省大臣(1981/ 1 -1986/ 6)、財政省大臣(1986/ 6 -1987/ 2)、軽工業省大臣(1987/ 2 -1990/ 2)。国会代表(国 6 - 8 : 76,81.87)、90 年 4 月引退。(ND.1993.8.31)

Vu Van Can 1915/10/15-1982/ 6 /13 フンイエン / ミーヴァン

1943 年、医科博士課程修了。八月革命後、志願して軍隊に参加した知識人の 1 人として、ハ

ノイ衛国団で医療責任者となる。ベトナム人民軍医局局长(46-65)、医療省次官(60)、国防省後方総局副局長(65)、大佐(65-74)、国会代表(国4:71)、医療省大臣代理(1974/4-1975)、国会代表(国5:75)、医療省大臣・医療省党幹事会書記(1975-1982/4)、国会代表(6,7:76,82)。医師、少将(74)、医科医師科卒業(43)、医学博士(43)(ND.1982.6.14)

Xuan Thuy 1912/9/2-1985/6/18 ハノイ/トゥーリエム

1941年入党。愛国的儒者の家庭に生まれる。1932年より革命活動に参加。38年-43年、フランス当局により何回も逮捕・投獄される。44年初頭、出獄してベトミン総部の中央機関紙『救国』紙の責任者となる。45年から、総蜂起の準備に参加、北部臨時革命人民委員会の委員となる。八月革命後、45年に北圻党委員会委員、国会代表(国1-7:46-87)となる。党中央候補委員(55)、党中央正式委員(党3:60)、外務省大臣(1963/4/30-1965/4)、パリ和平会談の政府代表団団長となり政府大臣(1968-1971)、無任所大臣(1971-1975)、党書記局員(68-82)。また、党中央対外委員会委員長、国外党幹事会委員長、党中央国際活動委員会委員長、西方工作委員会委員長、党中央民衆運動・民族戦線委員会委員長なども歴任。その他、ベトナム祖国戦線中央委員会主席団委員、越・ソ友好協会会長(80)、ベトナムの世界平和防衛委員会副委員長兼総書記、ベトナム・ジャーナリスト協会会長、ベトナム祖国戦線党団書記、国会常務委員会副委員長兼総書記(60-81)、国会副議長(81-85)、国家評議会副議長兼第一書記(81-82/6)。(ND.1985.6.20)